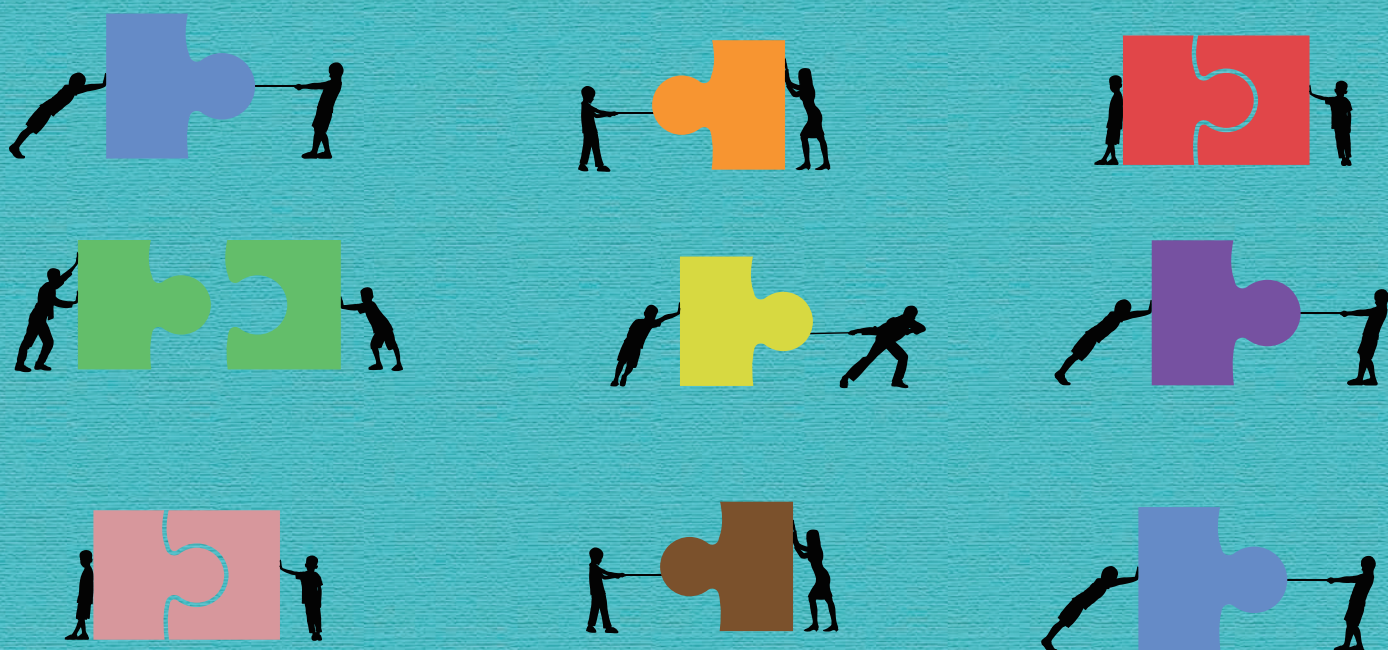


第2回 ESD 日本ユース・コンファレンス

2015 年 10 月 10 日～11 日

参加者活動紹介



※本事業は、平成 27 年度日本／ユネスコパートナーシップ事業、
ユネスコ 70 周年記念事業です。

主催：文部科学省、日本ユネスコ国内委員会、公益財団法人五井平和財団
協力：一般社団法人 グローバル教育推進プロジェクト (GiFT)

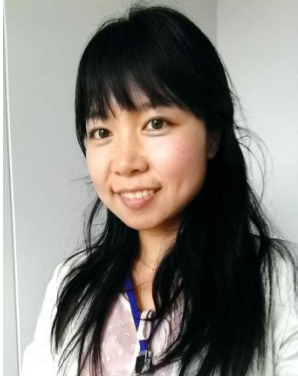
ESD YOUTH JAPAN
Education Innovation

【第2回ESD日本ユース・コンファレンス参加者 50名】

五十音順 敬称略

1・・・青山 真弓	文教大学 非常勤講師、 一般社団法人環境報告研 事務局
2・・・秋葉 莉緒	横浜市立大学国際総合科学部、 特定非営利活動法人エコ・リーグ
3・・・秋山 莉菜	関東国際高等学校外国語科英語コース 教諭
4・・・飯塚 綾子	公立小学校（東京都）情緒障害通級指導学級 講師
5・・・石川 郁香	公益社団法人日本ユネスコ協会連盟理事（柏ユネスコ協会青年理事）、 公立小学校教諭
6・・・遠藤 舞偉	高岡市立成美小学校 教諭
7・・・及川 いずみ	東京学芸大学教職大学院
8・・・大河内 洋介	地域サークル「たまラボ」 代表、 I love saitama ふろでゅーす 企画委員
9・・・大野 さゆり	オムロン株式会社 IABカンパニー人材戦略室、 BRIDGE Institute
10・・・大森 美幸	岡山市立公民館職員
11・・・梯 愛依子	PLAY FUKUOKA プレイワーカー、研修コーディネーター、 一般社団法人サステナビリティ・ダイアログ ソーシャル事業部
12・・・加藤 杏咲	慶應義塾大学法学部政治学科
13・・・川田 晃	岡山大学教育学部学校教育教員養成課程中学校教育コース美術専修、 ESDグローバルCafé
14・・・窪田 勉	兵庫県立兵庫高等学校 教諭
15・・・熊坂 真輝	特定非営利活動法人ハンガー・フリー・ワールド
16・・・後藤田 洋介	奈良教育大学ユネスコクラブ 副代表
17・・・小畑 怜美	認定NPO法人カタリバ、 文京区青少年プラザb-lab(ビーラボ) 広報
18・・・坂田 弥優	All Japan Youth Eco-clubメンバー、 North-East Asia Youth Peace Camp カウンセラー
19・・・笹川 貴吏子	立教大学大学院異文化コミュニケーション研究科
20・・・篠田 真穂	早稲田大学大学院アジア太平洋研究科国際関係学専攻、 ユネスコ・アジア文化センター（ACCU）インターン
21・・・白井 龍馬	横浜女学院中学校高等学校 教諭・ESD推進プロジェクトチームメンバー
22・・・新 友一郎	兵庫県立加古川東高等学校 教諭
23・・・菅原 淳史	宮城県多賀城高等学校 教諭
24・・・杉川 幸太	広島大学大学院工学研究科 助教、 大学教育を考える会
25・・・瀬川 美華	国連難民高等弁務官駐日事務所インターン

26・・・高原 麗奈	NP0法人箕面こどもの森学園 専任スタッフ
27・・・竹田 響	中央大学総合政策学部国際政策文化学科
28・・・田開 寛太郎	東京農工大学大学院連合農学研究科博士課程
29・・・Chia Mu Kai Dennis	東京大学大学院修士
30・・・徳武 雅也	筑波大学社会・国際学群国際総合学類
31・・・戸村 夢帆	東北大学教育学部
32・・・内藤 圭祐	名古屋国際中学校・高等学校 教諭
33・・・内藤 崇	中外製薬株式会社 プライマリーユニット九州北営業部
34・・・中尾 有里	NP0法人箕面こどもの森学園 常勤スタッフ
35・・・中島 江梨香	中部大学分子性触媒研究センター研究員
36・・・長嶋 里恵	上智大学総合人間科学部教育学科
37・・・中野 直実	鹿児島大学教育学部学校教育教員養成課程家政専修
38・・・流尾 正亮	岡山市役所市民協働局E S D推進課 主任
39・・・野中 光	一般社団法人Enactus JAPAN プログラムマネージャー
40・・・野村 佳世	大垣市立上石津中学校 教諭、 Go4BioDivメッセンジャー
41・・・平原 菜南子	西南女学院大学人文学部英語学科、 カンボジア教育支援プロジェクト「ANAKOT」
42・・・福島 宏希	United Youth 代表、 NP0法人ボランティア活動推進国際協議会日本 副理事長
43・・・福田 あつ美	群馬県立女子大学国際コミュニケーション学部
44・・・星 久美子	特定非営利活動法人開発教育協会／DEAR 事務局スタッフ、 ASPUivNet東海大学教養学部 事務局
45・・・松岡 竜太	京都市立紫野高校 教諭・企画推進部
46・・・松倉 紗野香	上尾市立東中学校 教諭
47・・・與儀 滝太	沖縄県立名護青少年の家 ボランティア・国際交流事業担当
48・・・横字 史年	東京大学教養学部初年次長期自主活動プログラム採用生
49・・・吉次 恵美	北九州市立大学国際環境工学部 非常勤講師
50・・・吉本 光平	福岡県立武蔵台高等学校 教諭

ふりがな 氏 名	あおやま まゆみ		都道府県	岡山県	
	青山 真弓				
所属/肩書	・文教大学 非常勤講師 ・一般社団法人環境報告研 事務局				
私のESD活動	「持続可能な社会」とは、どんな未来なのか？ 子供達、地域住民、大学生と共に「描きたい未来」を共有する				
ESD活動を 表すキーワード	道徳教育	自然体験	持続する社会づくり		

活動の概要（特に、取り組みの独創性、革新性、成果について説明してください）

■これまでの主な活動紹介

1)大学とコラボ→学生の単位取得にも繋がる「つくばこどもクラブ」月1回子供向けにESDを企画実施していました。
 成果:一緒に活動していた他大学の学生(Off Campus Program(OCP))の指導的な立場に関わり、大学生にイベントの企画立案(起業家精神に繋がる)の指導をしました。

2)大学と地域→「気候変動適応策の地元学」環境省から委託を受けワークショップ運営のお手伝いをしていました。
 成果:長野県飯田市に毎月出向き、市役所職員の方々向けにワークショップを実施しました。
 飯田市の市役所職員向けに、「適応策→地域づくり」について伝えるお手伝いし、市役所職員の活動グループに「環境班」が立ち上がった事が成果だと思っています。

3)企業と地域→「サステナビリティ学」教材作りの塾講師を2年間務めました。(千葉県柏市)
 「ネクスファ」という千葉県柏市にある塾の立ち上げに関わりました。
 成果:成果としては、「サステナビリティ学」を小中学生向けに広く伝える機会を提供する事ができたという事だと思います。

4)国際機関と日本→国連環境計画で発行しているGEO5の日本語訳出版のお手伝いをしています。
 成果:シニア自然大学での講演決定。「地球環境概況第5次報告書(5th Global Environment Outlook:GEO-5)」の日本語版出版が決まりましたら、今後もより一層内容をわかりやすく講演・ワークショップで理解を深める活動を行おうと思っています。

・3)の「「サステナビリティ学」教材作り」に関わった塾サイト <http://next-ph.jp/school.html>

・4)の「地球環境概況第5次報告書(5th Global Environment Outlook:GEO-5)」出版関連サイト <http://hokokuken.com/>

ESD活動をさらに深めるために、今後どのような活動を展開していこうと考えていますか？

自分の今後

1)ESD活動を深めるために、今後大学などの研究機関で授業やゼミの中にESDの考えを積極的に取り入れていこうと思っています。→大学や教育機関での働きかけ

2)全国の地球温暖化防止委員の活用→地球温暖化防止委員向けのワークショップ活動、ESDカフェ提案

3)地域のコミュニティカフェで、ワークショップ企画→地域課題からESDを知ってもらう
 講師を呼び様々な取り組みを紹介したい。(ネットワーク作りが常に必要)

ふりがな 氏 名	あきば りお	都道府県	神奈川県	
	秋葉 莉緒			
所属/肩書	・横浜市立大学国際総合科学部 ・特定非営利活動法人エコ・リーグ			
私のESD活動	私はこれからを担う世代に『レアメタル』の諸課題とその重要性を伝える ESD 活動をしています			
ESD活動を 表すキーワード	環境	開発	レアメタル	
活動の概要（特に、取り組みの独創性、革新性、成果について説明してください）				
私は特定非営利活動法人エコ・リーグの Resources & 3R Revolution（以下、RRR）というプロジェクトにて ESD 活動を行っています。RRR は金属資源、特にレアメタルに関する諸問題をテーマとして ESD を展開しています。対象は幼稚園児～大学生までの将来を担う世代をターゲットにしています。具体的な活動としては、金属資源問題に関するワークショップの実施やイベントのブース出展における啓発活動を行っています。活動の中で特にイノベティブな取り組みはレアメタルをテーマにした子ども向け教材作成をしている点だと考えております。1 近年徐々に増えてきたものの、レアメタルをテーマに活動している団体は数少なく、その中でもレアメタルをテーマとした子供向けの教材を作成しているところはあまりありません。その原因の一つとしてレアメタルは身近な製品に多く使われてはいるものの、鉱石そのものを製品から確認することはできず具体的なイメージがつかないことやレアメタルに関する諸問題の複雑さと難解さがあることが考えられます。しかし、私たちは将来を担う子どもにこそこのような問題を伝えることが必要だと考えています。特にレアメタルかるたに関しては現在までブース出展や小学生向けワークショップにおいて実施し、約 350 人もの子どもとその親にもレアメタルについて興味・関心を持ってもらうことができました。また、レアメタルかるたはイベントでの配布を行い子どもたちが継続して学べるようにしています。このように遊びを通してレアメタルという難しいテーマについての学びを提供できたことは弊プロジェクトの一つの成果であると考えています。				
・特定非営利活動法人エコ・リーグ Resources & 3R Revolution HP http://rrr.eco-2000.net/index.html ・特定非営利活動法人エコ・リーグHP http://el.eco-2000.net/				
ESD活動をさらに深めるために、今後どのような活動を展開していこうと考えていますか？				
私は自分の ESD 活動をさらに深めるために、共に発信者となってくれる仲間を増やす活動を展開しようと考えています。今までは一方的に弊団体のメンバーが発信者となって活動をしてきました。その結果少しずつレアメタルに関する諸問題の認知度は向上してきました。しかし、まだその広がりはいくくの人にもこの問題を知り・一緒に行動していきたいと考えています。そこで今年度から、『受信者から発信者へ』ということでワークショップの中でレアメタルに関するポスターを参加者に作成してもらい情報の発信者になってもらうという取り組みを始めました。このように、参加者を巻き込んで共に活動できるような取り組みを今後さらに展開させたいです。				

ふりがな 氏 名	あきやま りな	都道府県	東京都	
	秋山 莉菜			
所属/肩書	関東国際高等学校外国語科英語コース 教諭			
私のESD活動	人のところに平和のとりでを築く ESD を学校現場で実践しています。理論と実践をつなぐ ESDist を目指します			
ESD活動を 表すキーワード	異文化理解	課題解決		協働

活動の概要（特に、取り組みの独創性、革新性、成果について説明してください）

現勤務校にて、「World School International Forum」という、世界21カ国・地域にある本校の姉妹校の高校生代表を年に一度集めて行う国際会議を開催しています。毎年テーマを決め、それについて多国籍チーム戦で行うディベート活動を柱に、ディベートテーマにまつわる学外施設見学活動や、各国の伝統芸能パフォーマンス、開催国の生徒家庭でのホームステイなどを通し、参加する各国の高校生は異文化に対する理解や関心を深め、今、世界で起きている問題についての解決策を協働しながら探ります。

World School International Forum は今年で16年目の開催となり、今までに世界で計2000人以上の高校生と教職員が参加したことになります。イベント終了後も、参加者たちは会期中に知り合った仲間とウェブを通して交友を深めており、国籍、人種、宗教、信条、様々な違いを超えた友情を育んでいます。イベントで行われる活動はもちろん、その後に続き、深まる参加者同士の関係性こそ、未来の世界をより平和に発展させる為に大切なものだと考えます。

このイベント、そしてこの姉妹校ネットワークから得られる学びの機会を日々の学校教育活動に活かす取り組みにも、勤務校で力を入れております。本校の部活動として、World School 姉妹校と文通、ビデオレター交換、Skype 合唱コンクールなど生徒発案の異文化交流活動を行う World School Society をはじめ、年に一度の World School International Forum のテーマに関わる内容を、総合的な活動の時間や情報教科のプレゼンテーションの時間、英語教科の定期試験の内容に入れることにも、平成27年度では特に力を入れています。

・World School <http://www.world-school.com/>

ESD活動をさらに深めるために、今後どのような活動を展開していこうと考えていますか？

現勤務校にて担当している英語教科のリーディング授業内で、単元で取り上げた話題に基づいたトピックにて、「他人の意見を理解し」、「自分の意見を適切な方法で発信する」ことを念頭に置いた英語発表活動を取り入れています。今回のコンファレンスを通して得られるより深く多角的な ESD の考え方を英語発表活動に取り入れ、ESD としての英語発表活動を生徒たちが日々実践できる授業力を磨きたいです。現勤務校が持つ世界各国にある姉妹校ネットワークや、このコンファレンスで得られる参加者の皆様との新しい繋がりを通して、私の指導生徒の発表を学校外の方々と共有することにも興味があります。

また、現勤務校にて開催している World School International Forum においても、毎年設定するテーマに関わるディベート活動や学外社会施設見学を、この機会を通して得られるより深い ESD の理解に基づくものにしたいと考えています。

ふりがな 氏 名	いいづか あやこ	都道府県	東京都	
	飯塚 綾子			
所属/肩書	公立小学校（東京都）情緒障害通級指導学級 講師			
私のESD活動	発達障害の子ども達のサポートを通して、多様性と共存を認め合えるような教育活動を目指しています			
ESD活動を表すキーワード	人権	多様性	共存	

活動の概要（特に、取り組みの独創性、革新性、成果について説明してください）

私は公立小学校の特別支援学級の固定指導学級と通級指導学級という学級で、主に情緒の発達障害を持つ子ども達の教育支援に携わっています。最近注目されている、自閉症、アスペルガー症候群、ADHD、LDの症状を持つ子ども達を、今後どのように学校教育の中に取り入れていくか、そして、将来的に社会の中に順応させていくか、という取り組みが為されています。特別支援学級の情緒障害に対する教育的な取り組みは、昔では理解されにくかった発達障害を持つ子どもに対して、その子どもの持っている独自の個性や創造性、また適性を無理に通常の学級に入れさせるのではなく、出来る範囲で公共教育に馴染ませ、その子ども達を認めてあげるといった活動に大きな意味があると考えます。その方法としては、子どもと親身に向き合い、純粋な気持ちで寄り添い、認めてあげることが大切であり、たくさん褒めてあげる教育支援が大切です。成果としては、子どもの自尊心が満たされ、次はこんなことに挑戦してみようという学習意欲に繋がります。また、このような教育指導は通常級の子ども達にも同様の成果をもたらします。時には愛情をもって叱ることも必要ですが、褒めて認めてあげることがどれほど重要か、この学級の子ども達から学んでいます。しかし、支援学級の子どもの難しいところは、本当に繊細で、感受性が鋭く敏感なところです。自分の得意な分野に取り組んでいるときは、素晴らしい集中力と才能を発揮しますが、物事の切り替えや、順応という面で、工夫と周囲の理解が不可欠です。学級としての教育的取り組みからの理解だけではなく、様々な意味での多様性や個性を認め合う教育活動が必要だと感じています。

ESD活動をさらに深めるために、今後どのような活動を展開していこうと考えていますか？

1年間アメリカ留学をした経験から、自分のルーツに真剣に向き合ったことや、公立小学校の特別支援の教育活動から、自分の中の多様性に向き合うことの重要性を改めて考えました。また、多文化共生センターで、ボランティアの活動に携わったこともあり、そこから、多文化共生における教育の重要性も感じました。

様々な立場や状況で、今現在、日本という国で教育を受けている子どもたちに、自分の中にある多様性を感じさせ、そして個性として認めてあげる教育活動の展開が重要になるのではないかと考えています。それは、外国人だからとか、ハーフだからとか、発達障害だからなどの枠組みで考えるのではなく、今日本で共存しているという事実から、どこまで価値観を共有できるか、そして自尊心をもち、お互いに感動を共有し合えるかが、鍵になってくるのではないかと感じます。今後、私自身のルーツからも、多様性から始まる価値観の共有を考えていきたいと思っています。

ふりがな 氏 名	いしかわ あやか		都道府県	千葉県	
	石川 郁香				
所属/肩書	・公益社団法人日本ユネスコ協会連盟理事(柏ユネスコ協会青年理事) ・公立小学校教諭				
私のESD活動	ユネスコ精神に基づき、平和な社会を構築するための学びや活動の場を創ること				
ESD活動を表すキーワード	平和	生涯教育		主体性	
活動の概要（特に、取り組みの独創性、革新性、成果について説明してください）					
小学5年生から柏ユネスコ協会に所属し、18年間ユネスコの民間運動に参加してきた。高校生の時にインドの農村地帯へ行き、教育の重要性を感じた。平和の実現には、学校に通うことのできない子どもや文字の読み書きができない大人を減らすことだけでなく、先進国及び途上国で高い教育を受けた人が社会をどのように学び、社会問題をどのように捉え、どのように向き合っていくかが大切だと考えるようになった。大学1年生の時、ESD の理念を初めて学び、私がそれまで取り組んできたユネスコ活動そのものがESD であると感じた。その後、自主的な勉強会や小中学生への出前授業、募金活動、子どもたちとのキャンプ、スタディツアーなどを行う際は、常に ESD の視点を念頭に置き、取り組んできた。 現在、主に取り組んでいる ESD 活動は、今年の8月2～5日に開催した「第47回ユネスコ子どもキャンプ」の運営である。「平和のピース～感じて、つなげて、～」というテーマを設定し、生き物や自然環境、生活環境や人などがパズルのたくさんのピースのように繋がっていることを感じ、その大切さを学んで欲しいという思いと、平和を願う心を大切にし平和な社会の構築に貢献できる人に育ててほしいという思いを込めて企画・運営を進めて実施した。 民間ユネスコ運動における ESD 活動がさらに発展し、民間ユネスコ運動の発展が ESD 活動の大きな力になることで、平和な社会の実現に貢献できるよう取り組んでいきたい。					
ESD活動をさらに深めるために、今後どのような活動を展開していこうと考えていますか？					
民間ユネスコ運動における ESD 活動について考えを深め、具体的な活動に取り組み広げていきたい。ESD の風をユネスコ界にどのように吹かせることができるのか、ユネスコがESD の発展に果たすべき役割は何かを考え展開していきたい。公益社団法人日本ユネスコ協会連盟の最年少の理事として、若者の ESD 実践者を増やしていきたい。 また、小学校の教員として学校現場での取り組みについて考え、実践できるようにしていきたい。					

ふりがな 氏 名	えんどう まい		都道府県	富山県	
	遠藤 舞偉				
所属/肩書	高岡市立成美小学校 教諭				
私のESD活動	児童と共に地域を知り、地域で学び、地域の活動に積極的に参画していく姿勢を大切にしている				
ESD活動を表すキーワード	地域振興	文化継承	共生		
活動の概要（特に、取り組みの独創性、革新性、成果について説明してください）					
社会科と総合的な学習の時間の関連を図り、地域の「すてき」を見付ける活動を継続して行っている。年間を通じて、児童と共に地域の伝統行事や公民館活動への参加、校区の社会福祉協議会主催のいきいきサロン（異世代交流活動）への参加を行っている。「子供が地域に出ると、地域全体が元気になる」を信条に取り組んでいる。児童は、地域の人、もの、文化に直接触れる機会をもつことで地域の愛着を深めている。 今年度は、第3学年という発達段階を踏まえ、校区から市全体へと児童の視野を広げる活動を行っている。本市は、北陸新幹線の開業に伴い観光客が増加し賑わいを見せている。また、今年5月に「日本遺産」に登録され、一層クローズアップされている。この機会を捉えて、児童自身がふるさと高岡のよさを見付ける活動を行っている。校区に高岡市の観光ボランティアを務めている人がおられ、児童と共に市内の史跡や歴史的建造物を巡る活動を行ってくださっている。 そこで、体験活動の一つとして、3年児童主催の「高岡ってすてきツアー」の開催を考えている。児童が見付けた「すてき」を紹介しながら市内を巡るツアーである。観光ボランティアに弟子入りし修行した児童らが案内役を務める。対象は、同学年児童と保護者である。 このような活動を経験することで、児童は進んで地域の人と関わり、地域に参画していく資質や能力を高めていく。					
・高岡市立成美小学校 http://seibi-e.el.tym.ed.jp/					
ESD活動をさらに深めるために、今後どのような活動を展開していこうと考えていますか？					
私自身が、世界遺産や日本遺産に登録された他の市町村と接点をもつ。その方法は登録地へ出かけての直接の取材であったり、該当する市町村の教員や保存会の人との交流であったりする。児童にとって身近な「たからもの」である地域遺産を守り、未来に継承していく活動を行っている人となつがりもち、私自身も活動の担い手として取り組んでいきたい。 そして、児童には、地域の「すてき」を見付け、みんなで調べたり、考えたり、意見を出し合ったりする活動を通して、伝統、文化の継承の担い手としての資質・能力を高めていきたい。本市が日本遺産に登録された今だからこそ学びがいがあると考えている。					

ふりがな 氏 名	おいかわ いずみ 及川 いずみ	都道府県 東京都	
所属/肩書	東京学芸大学教職大学院		
私のESD活動	(学部)地球子どもキャンプ・卒業研究、(大学院)課題研究・創成研修 ☆ESD をどう授業に組み込むか？		
ESD活動を 表すキーワード	開発教育	環境教育	カリキュラム開発
活動の概要（特に、取り組みの独創性、革新性、成果について説明してください）			
・「地球子どもキャンプ」企画運営 学部時代、認定 NPO 法人 IVY が主催する「地球子どもキャンプ」に、キャンプリーダーとして過去 3 回関わってきました。ESD には様々な新しい教育が含まれますが、「地球子どもキャンプ」は主に環境教育・開発教育に焦点を当てたキャンプです。東北地方の小学 4～6 年生を対象に、自然の家で 2 泊 3 日に渡って行われます。「自然エネルギー」「森」「異常気象」のようにテーマをひとつ設定し、キャンプリーダーはそれに基づく 2 泊 3 日のワークショップを分担して作り上げます。 2013 年冬に「異常気象」でキャンプを行った際、私はワークショップ「貿易ゲーム」を異常気象版にアレンジし、メインファシリテーターを務めました。内容は、まず子どもたちの班を国と見立てた上で、貿易で集めたお金でアイテムを集め、豊かな国を作らせます。しかし、それぞれのアイテムの裏に付いている赤いシールは CO2 の量を表していることを後に知らせます。これにより、豊かな生活による CO2 増加が地球温暖化を引き起こし、異常気象につながることを体感させることができました。このような取り組みは ESD につながるものと考えます。 ・卒業研究「教育実践における ESD・CLIL の認知度とその可能性」 私は将来、宮城県で小学校教員として ESD を実践したいと考えています。そのため、学部時代（宮城教育大学）の卒業研究では、教員をめざす学生がどのように ESD を認知しているか調査しました。ESD という言葉を聞いたことがない者 78%・何の略か知らない者 92%でしたが、その一方で ESD の実践意欲がある者 86%という結果でした。まだ知名度は低いものの、ESD が未来の教員に浸透することを予見させる研究結果となりました。 ・IVY youth http://ivyouth.jimdo.com/global-education/			
ESD活動をさらに深めるために、今後どのような活動を展開していこうと考えていますか？			
・課題研究「小学校における教科横断型 ESD カリキュラム開発」・・・現在、東京学芸大教職大学院で、自身の課題研究テーマに「小学校における教科横断型 ESD カリキュラム開発」を据え、取り組んでいる最中です。ESD を学級担任が実践するにあたって、ESD の各テーマと各教科内容をつなげることが大切です。ESD カレンダーのようなカリキュラムづくりによって、児童と教師それぞれにどのような良い影響がみられるのか研究していきます。 ・創成研修（多摩市立多摩第一小学校）・・・今年の秋から 1 年半、教職大学院のカリキュラム（創成研修）で週 2 日、多摩市立多摩第一小学校で研修を行わせて頂きます。多摩市立多摩第一小学校は、環境教育を軸に据えて、理科・生活・総合的な学習の時間等を活用して問題解決型の授業づくりに取り組んでいます。小学校の部で ESD 大賞を受賞したこともある先進校で、ESD 実践のようすを観察・分析し、また自身も一部の授業を行わせて頂く予定です。			

ふりがな 氏 名	おおこうち ようすけ	都道府県	埼玉県	
	大河内 洋介			
所属/肩書	・地域サークル「たまラボ」 代表 ・I love saitama ぷろでゅーす 企画委員			
私のESD活動	地元さいたま市における、地域の課題発見及び解決を通じて、参加者が地域を大切にしつつ成長する機会の創出			
ESD活動を 表すキーワード	郷土愛	シティプロモーション		
				地域交流

活動の概要（特に、取り組みの独創性、革新性、成果について説明してください）

1 概要

地域の課題解決を通じて、体系的な思考力や他人を動かす統率力、情報の分析能力等を高めるとともに、社会に貢献する人材の養成を目標に、埼玉県さいたま市を拠点に活動しています。なお、たまラボは、市民グループ I love saitama ぷろでゅーすを母体とする青年部として本年5月に発足いたしました。

2 活動事例① ～来訪者との交流活動～

たまラボでは、市外からさいたま市に訪れた方々との交流活動を実施しています。地域間交流を通じて、地域の魅力を発信するとともに、イノベーションにつながるアイデアや人脈を得ることを期待するものです。具体的には、これまで4回に亘り、プロサッカーチームの観戦に訪れたアウェーサポーターとの交流活動を行いました。参加されたサポーターには、試合結果だけでなく大宮での思い出も携えて帰っていただくことができ、スタッフとして参加した者には、自分たちの地元を客観視する機会や地域に共通する課題の発見に役立つ着想を提供することができました。

3 活動事例② ～氷川参道を拠点とした活動～

本年3月に大宮氷川神社の参道にて開催した「さんきゅう参道 2015」では、同日開催イベントと合わせて約3万人の来場者を集め、アマチュア市民による手作りのイベントとして成功を収めました。イベントの中では、地元の専門学校生によるブースを出店してもらい、社会活動を経験する機会を提供しました。また、地元高校に依頼して、在籍する生徒約30名を派遣していただき、イベントを盛り上げる手伝いをしてもらいました。参加した学生や生徒たちからは、地元の活動に参加できたことに対する喜びや達成感が聞かれ、教員からも貴重な実学のある場であるとの評価をいただきました。

・たまラボ Facebook ページ <https://www.facebook.com/tamalabo.saitama>

・I love saitama ぷろでゅーす Facebook ページ <https://www.facebook.com/ILoveSaitama>

ESD活動をさらに深めるために、今後どのような活動を展開していこうと考えていますか？

より多くの方々と地域の課題を共有し、その解決に向かうプロセスの中で、学びの機会を提供する活動を実践いたします。各種グループや教育機関及び賛同者との連携を目指し、特に2つの企画を推進することを計画しております。

○企画例① 教育関係の NPO 及び教育機関と連携した課題解決プログラムの実施・・・たまラボ、教育関係の NPO 及び教育機関とのコラボレーションによる、地域の課題解決プログラムの実践を検討しています。地域の様々な側面に触れ、潜在する課題を発見し、解決に導くプロセスを経ることで、より複雑で困難な課題にも果敢に立ち向かう人材を養成しようとするものです。

○企画例② 氷川参道を拠点にしたイベントの定例化・・・定期的なイベント開催を通じて、現在の ESD 活動をより多くの方々に周知することも有効な方策であると考えます。氷川参道におけるイベントを月に1度の定例で行うことにより、地域に根付いた活動として認知させることを検討しております。

ふりがな 氏 名	おおの さゆり	都道府県	京都府	
	大野 さゆり			
所属/肩書	・ オムロン株式会社 IAB カンパニー人財戦略室 ・ BRIDGE Institute			
私のESD活動	国際教育の理論を自ら学び、実践すると同時に、対外的にも学び合いの機会を提供する			
ESD活動を表すキーワード	自分らしく	きらきら	わくわく	

活動の概要（特に、取り組みの独創性、革新性、成果について説明してください）

グローバル人財育成の取組みを、より多くの人へ拡げること、また、個々の取組みを、相互の学び合いを通じてより良いものしていくことを目的に、2013年にBRIDGE Instituteという団体を設立しました。まず、高校・大学・企業などの枠を越えて人財育成の取組みを学び合う場を提供する点がイノベーティブです。さらに、40代から20代まで幅広い年代の運営メンバーが、年齢に関わらず対等な関係で運営している点も、イノベーティブです。

対外的には、2014年夏に2泊3日の合宿型研修を京都で開催し、25名に参加いただきました。教育従事者から学生まで、住まいも関東から沖縄まで多様な参加者に恵まれ、好評に終わりました。2015年以降も継続して開催予定です。

対外的に学び合いの場を提供するためには、運営メンバーのスキルアップも不可欠です。そのために年間4回の合宿型勉強会を開催し、メンバー間の学び合いを行っています。

意欲のある人に対しては、できる限り多く学び合いの機会を提供したい、という思いから、書籍の出版や団体の法人格取得なども視野に入れ活動中です。

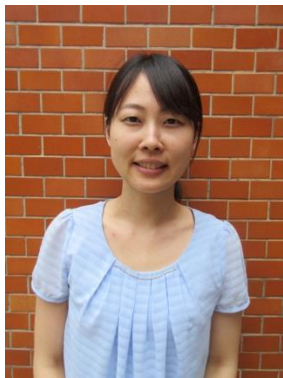
・BRIDGE Institute <http://applygobridge.wix.com/bridge>

ESD活動をさらに深めるために、今後どのような活動を展開していこうと考えていますか？

現状では、主に次の3つですが、このコンファレンスを通じ、新たな活動のアイデアが生まれればと考えています。

1:BRIDGE Institute の活動 2:自社内の人財育成 3:身近な人の背中を押すこと

3について補足します。私は、日本の学校に溶け込めずに精神病になり高校を中退している一方で、内閣府等が主催する国際的なプログラムへの参加経験が複数あります。この特異なバックグラウンドが故、ひきこもりの息子を持つ50代、働きすぎでメンタルダウンをした40代、海外から帰任後、娘が日本の幼稚園に溶け込めず悩んでいる30代、日本で苦勞しながら働く20代外国人など、様々な人が相談に来てくださいます。そういった方々一人ひとりに対し向き合い、認め、背中を押すことができればと常に考え活動していますし、今後も継続します。

ふりがな 氏 名	おおもり みゆき 大森 美幸	都道府県	岡山県	
所属/肩書	岡山市立公民館職員			
私のESD活動	個人の課題を地域の課題として共有し解決するために、場作りや仲間作りを進めている			
ESD活動を表すキーワード	地域・地域社会	課題の共有と解決のための行動	次世代の育成	
活動の概要（特に、取り組みの独創性、革新性、成果について説明してください）				
岡山市内の中学校区におよそ一つある公民館に勤務し、地域に根差した ESD 活動に取り組んでいます。岡山市は、2014 年に「ESD に関するユネスコ世界会議」の関連会議として「ESD 推進のための公民館-CLC 国際会議～地域で学び、共につくる持続可能な社会～」を開催し、公民館やアジアを中心とする CLC（コミュニティ学習センター）、NGO など、社会教育（ノンフォーマル教育）の視点から、ESD や持続可能な地域づくりについて議論しました。会議の成果は、「岡山コミットメント（約束）2014」としてまとめられています。 ESD は持続可能な社会を作っていくための世界的な取り組みですが、持続可能な社会の一番身近な単位は地域ではないかと思います。個人の悩みを地域のものとして共有し、課題解決のための行動に移す。そのための場づくり、仲間づくりを進めています。 ＜取組内容＞ 地元の歴史が風化してきていることを寂しく思う方が、もっと若い人にも「地域」を知って欲しい、と感じていたことをきっかけに、事業を展開しました。地域の特性を過去の歴史から学び、その良さを活かしながら、地域の特性に合った持続可能な地域コミュニティを創っていくことが大切であると考えています。熱意を持った地域の方々と一緒に事業を進めることで、地域の歴史に子どもから高齢者まで幅広く興味を持ってもらうよう工夫しています。 ・地域を紹介するビデオを作成、販売した。 ・後世に残したい風景を募り、マップにして配布した。 ・作成したマップを使用して、ウォーキング大会を開催し、地域の魅力を幅広い世代で共有した。 ・郷土料理ふなめしを食べる会でふるさとクイズを開催し、子どもたちを巻き込み、楽しく歴史を学んだ。 ・おかやま ESD なび http://www.okayama-tbox.jp/esd/ ・岡山市立公民館 ESD 実践事例集「れんめんめん」 http://www.city.okayama.jp/esd/esd_00017.html				
ESD活動をさらに深めるために、今後どのような活動を展開していこうと考えていますか？				
岡山市では 2014 年に ESD に関する世界会議が開催され、世界各国から地域に根ざした公民館の「草の根 ESD 活動」が注目を集めました。各公民館に「ESD コーナー」の設置や、講座やイベントの実施などを通じて、認知度は高くなりましたが、岡山市内ではまだまだ知らない、あるいは理解できていない人も多いのが現状です。岡山市では公民館中心に ESD を推進してきましたが、公民館の利用者はまだまだ一部の市民にとどまっています。 趣味や教養、文化的な活動を中心に行っている公民館のイメージから、個人の課題を地域で共有し解決していくための、地域の活動の拠点であるといった認識に変えていくことで、公民館をより幅広い層の方々に利用してもらい、ESD の理解と活動の輪を広げていきたいと思っています。				

ふりがな 氏 名	かけはし あいこ 梯 愛依子	都道府県	福岡県	
所属/肩書	・PLAY FUKUOKA プレイワーカー、研修コーディネーター ・一般社団法人サステナビリティ・ダイアログ ソーシャル事業部			
私のESD活動	子どもも大人もいきいきと暮らす日々と未来のための プレイワーク、コミュニティワーク、ラーニングジャーニー			
ESD活動を表 すキーワード	遊ぶ	コミュニティ	学び合い	
活動の概要（特に、取り組みの独創性、革新性、成果について説明してください）				
2008 年「学生プレイワーカー育成講座」を第1期生として受講し始め、現在はコーディネート役を勤めています。福岡県内の 8 つ程の大学から、子どもや教育に関心のある学生達が集まり、子どもの育つ環境や関わる大人のあり方について学び合いを続けています。現在ではのべ 250 人以上の受講生が卒業し、それぞれ教師や行政職員、あるいは企業に勤めたり母親になったりとそれぞれの立場から社会で活躍しています。 子どもの視点から社会を見ると、人々の暮らしにとって本質的に重要な点を突きつけられます。子どもが自ら育つ力を発揮する「遊び」の重要性を理解し、環境を整える活動は、長い目で未来を育むことと言えます。学生たちが互いの持ち味を活かして学び合う取り組みは、智恵と経験を重ねて個々の自信となり、その後も拠り所とできるコミュニティを育み、結果として社会に出て子どもにやさしいまちづくりを担う人材を輩出するという循環型システムとなっています。現在も月に一度の学び合いの場と、福岡市の放課後等の遊び場づくり事業における現場実習を基本とする育成講座を行っており、世代交代等で活動自体の持続可能性が危ぶまれることの多い市民活動にとって貴重な人材育成の基盤を築いています。 現在では、子どもに直接関わるだけでなく、子どもを取り巻く大人や地域環境へのアプローチが必要と考えるようになり、大事な話のための場づくりを考えるトレーニング(Art of Hosting)他へ参加し、サステナビリティや参加型リーダーシップ、コミュニティワークや対話型ファシリテーション、パーマカルチャーについて学びを深めながら、各地に根ざす実践者の研修等での実践とを行き来しています。				
・PLAY FUKUOKA Facebook ページ https://www.facebook.com/PLAYFUKUOKA ・一般社団法人サステナビリティ・ダイアログ Facebook ページ http://u111u.info/m9zf				
ESD活動をさらに深めるために、今後どのような活動を展開していこうと考えていますか？				
①コミュニティのユース(受講生・同窓生のグループや福岡・九州でNPOや教育に関わる若手)、②地域に暮らす生活者や実践者、③アジアやグローバルで繋がるユース、それぞれと共に活動を深め、さらに互いの良さを持続可能な暮らしや社会のために活かし合えるような活動を展開していきたいと考えています。 ESD を言葉として知らない人、あるいは考えたことのない人は未だ多いと思いますが、同時に、大切なこととして考えたいと思っている人も多く潜在しています。これまでの育成事業の蓄積を活かして、そうした人たちに届く呼びかけをし、共に考え行動していく機会をつくっていきます。次に、地域に暮らす人々、とりわけ里山や地方に長年住む中高年の先輩たちが持っている、私たちが持続可能性を追求する上で学ぶべき智恵を分けてもらう機会をつくっていきます。さらに、そうした小さな活動の一つ一つを収穫して、共有できる実践知を創出していきたいと考えています。				

ふりがな 氏 名	かとう あず 加藤 杏咲	都道府県	東京都	
所属/肩書	慶應義塾大学法学部政治学科			
私のESD活動	現場活動による開発教育の意味と可能性の追求、そしてその計量的評価による認知と行動者の環の拡大			
ESD活動を表すキーワード	開発教育	貧困削減	権利	
活動の概要（特に、取り組みの独創性、革新性、成果について説明してください）				
全日本模擬国連大会に出場したことを契機に、労働を強いられているが故に学校に通えず、教育を享受できていない子供の存在に大きな問題意識を抱いた。特に、女子教育の効果の著しさに驚いた。女子教育により、乳幼児死亡率の低下や GDP 成長率の上昇など、まさに「天の半分は女性が支える」という諺を証明する効果が数的に見えていた。この現状を 1 人でも多くの、多様な層の人に伝えたい、結果として継続的な現状改善につなげたい。この想いが私を突き動かした。フォーラムや勉強会など、一定程度の問題意識を持った人だけを対象にしない活動をしたい、と思った私が取り組んだことが、Ethical Fashion Show の開催だった。 Ethical Fashion とは、社会に対して倫理的な服を選択して着ることである。児童労働をさせていないと認定された服飾店や、フェアトレードを徹底した服を選択することによって、社会や意識を変えていける。私は、このおしゃれの背景に、全員が教育を享受できる社会実現をみていた。 この習慣を広めるべく、私は 2014 年 12 月、国際展示場にて Ethical Fashion Show を開催した。服飾専門学校との共同企画として動き出したこの企画には、多様な企業の方々からの御協力を得ることができ、当日着用する服やアクセサリーまで全て提供いただけた。当日、国際展示場のブースは満席となり、立ち見の方までいる盛り上がりを見せた。 この、社会問題を誰もが取り組みやすいファッションという切り口でアプローチしたことが評価され、当日の様子は朝日新聞デジタルに掲載され、公明党山口那津男氏にも観覧いただけた。社会問題への関心の喚起は様々な方法がとられるべきであり、分かりやすさ、楽しさから ESD への行動に繋がっていくべきである。				
ESD活動をさらに深めるために、今後どのような活動を展開していこうと考えていますか？				
私は「全ての人が高質の教育の恩恵を享受」できるようにするために、現場での草の根的な活動に力を入れつつ、認知拡大にも努めたい。これまで、ESD の活動が机上であったことが多かった分、様々な知識を得てきた。だからこそ、次は現地にて活動を実際に行い、これまで積み重ねてきた土台を活かす活動に重点を置きたい。実際、4 月からスリランカでの教育プロジェクトを動かし始めており、夏春それぞれ 6 週間活動することが決定している。 また、自分が活動するだけで終わらせず、ESD への認知を広げ、活動者の輪を広める活動にも従事したい。日本において、教育の重要性は感覚的に認知されているものの、その必要性を実感を持って知っている人は少ない。この理由として、教育の成果が数値化しづらいからだと考える。そのため、中室牧子氏が教育に定量的評価軸を取り入れた例を参考にしつつ、ミクロ計量経済学理論をもとに活動報告を出し、認知拡大につなげたい。				

ふりがな 氏 名	かわた ひかる	都道府県	岡山県	
	川田 晃			
所属/肩書	・岡山大学教育学部学校教育教員養成課程中学校教育コース美術専修 ・ESD グローカル Café			
私のESD活動	多国籍・多世代の人々とグローバルな視点で社会問題 の解決策を思考することで岡山の多文化共生を図る			
ESD活動を表 すキーワード	多国籍・多世代とのつながり	カフェでディスカッション		岡山大学地域総合研究センター 岡山市 ESD 推進協議会公認

活動の概要（特に、取り組みの独創性、革新性、成果について説明してください）

カフェというリラックスした空間で持続可能な開発に向けたテーマを設定し話し合うことで、地域の人(社会人)や学生、留学生など世代や立場を越え、多様な文化的背景を持つ人々の交流の場をつくり、グローバルな思考とローカルな行動を結びつけ、岡山における持続可能な開発のための課題を共通に認識し、共に解決に向かう姿勢を育むことを目的とした「ESD グローカル Café」を企画している。

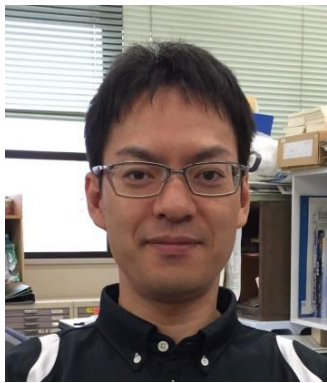
現在、岡山の ESD 推進協議会および環境学習センターアスエコの主催で「ESD カフェ」が開催されているが、学生の参加や、外国人の参加は少ない。本プロジェクトでは、多国籍・多世代の参加者と気軽に意見を交わすことができる。地域内においてのみの、日本人の価値基準においての「多様性」の範囲から抜け出し、広い範囲での多様な視点や価値観を獲得する。授業や文献、ネットから得た知識に、地域に根差した生きた知識を結びつけ地域に還元する。普段地域の人と交流する機会はあるが、何か共通の価値を創り出すのではなく、一時的に取り留めのない会話をしていることが多い。単発的な交流ではなく課題解決型の多世代・異文化間コミュニケーションをとることで非日常で知的な交流となり、学外とも密接につながることができる。大学が独立した学びの場ではなく、地域に根差した学びの場となり、生活の中でこれからの社会を学んでいけたらと思う。

第1回目は「多文化共生は可能か」についてディベートを行った。第2回目は「留学の意義」。留学生や学生、大学や市の教職員、地域の人々が参加した。第3回目は「開発途上国への支援の在り方」。岡山ユニセフ協会や国際協力NPOの方を含む様々な立場の人に参加して頂いた。

・おかやま ESD なび <http://www.okayama-tbox.jp/esd/>

ESD活動をさらに深めるために、今後どのような活動を展開していこうと考えていますか？

ますますボーダレス化していくグローバル社会において、様々な文化の中で自分の能力を発揮できることは重要なことである。私自身海外旅行や転校の経験により、「異文化」に適応すること、受容することの難しさを幾度となく実感した。多文化共生もいずれ帰ることを前提とした一時的な交流ではない。持続可能な開発のために問題意識を共有している共同体のような状態のことを言うのだと思う。このような状態をカフェでつくり出したい。岡山のように、自然環境的にあまり負荷がなく、周囲の人との協力を要せずとも最低限生きていける環境の場合、異文化を受け入れることに摩擦を感じるかもしれない。しかし、これからの持続可能な開発には国内外問わず異文化から新しい価値を地域社会に取り入れることが必要不可欠である。岡山大学はスーパーグローバル校にも指定されており、グローバル化を肌に感じられる環境である。大学と地域とをより密接につなげていきたい。

ふりがな 氏 名	くぼた つとむ 窪田 勉	都道府県	兵庫県	
所属/肩書	兵庫県立兵庫高等学校 教諭			
私のESD活動	「“輝ける未来創造都市”神戸の実現に向けて、高校生の力を発揮しよう！」			
ESD活動を表すキーワード	まちづくり	中等教育	個人の尊重	
活動の概要（特に、取り組みの独創性、革新性、成果について説明してください）				
私は勤務校の兵庫県立兵庫高等学校において、学校設定教科「創造」で課題研究と実践活動を指導してきました。「創造」の授業で生徒は、世代や文化的背景の異なる人との交流を通じて、「正解のない問題」に対して多角的な視点から学習に取り組んでいます。この「創造」の授業は座学と研究活動の2つを展開しています。 座学は地方自治、多文化共生、少子高齢化、模擬選挙、財政問題、国際問題等をテーマに取り上げ、講義を行っています。テーマに合わせて行政機関やNPO等から外部講師を招き参加型講義を行うこともあります。地域でのフィールドワークや実践活動を視野に入れて、授業の展開やテーマの設定を工夫しています。 研究活動は次のように進めていきます。グループで神戸市の現状から課題設定をし、テーマに沿った行政機関、商店街振興組合、NPO等にフィールドワークを実施します。地域課題研究のおもなテーマは、防災、多文化共生、商店街活性化、空き家再生などです。その後、フィールドワークを重ねたり、ボランティアに参加したりして研究を深めます。2度クラス内での発表会を経て、課題解決の具体的な提案を実施可能な団体に提示し、後期の実践活動に移ります。 「創造」の授業の成果として、班員や関係者と連携し意見の調整をしながら同じ目標に向けて取り組むなかでコミュニケーション力の高まりがみられます。また、地域の諸課題の「当事者」となることで社会参画意欲が高まったといえます。さらに、失敗を繰り返しながら工夫して克服する経験を重ねることで、学習面においても学ぶ目的意識が高まり、進路や生き方に対して明確な目標をもつようになったことが成果としてあげられます。				
・兵庫高校未来創造コース1期生の活動記録 https://www2.hyogo-c.ed.jp/weblog2/hyogo-hs/?cat=8 ・兵庫高校未来創造コース2期生の活動記録 https://www2.hyogo-c.ed.jp/weblog2/hyogo-hs/?cat=14				
ESD活動をさらに深めるために、今後どのような活動を展開していこうと考えていますか？				
現在の勤務校での研究活動・実践活動の取り組みはある程度充実したものとなっていると考えますが、その活動を基礎付ける座学の学習がまだ不十分であると考えます。したがって、生徒は研究活動や実践活動でいったい何を指しているのか、それは単に地域活性化や地域の課題解決で住民が喜ぶというのではなく、自分も社会の一員、あるいは「当事者」として持続可能な社会を実現しようとしていることを明示できるような授業を展開したいと思います。授業では、さまざまな立場の意見があり、時には衝突があり、妥協があり、先送りがありなど多様性を受け入れながら個人を尊重できる社会づくりが時間はかかるが大切だと伝えたいです。				

ふりがな 氏 名	くまさか まさき 熊坂 真輝	都道府県	千葉県	
所属/肩書	特定非営利活動法人ハンガー・フリー・ワールド			
私のESD活動	所属する NGO で「飢餓」という問題に対して「食」を切り口に学生たちと活動しています			
ESD活動を表すキーワード	食	青少年	人権	
活動の概要（特に、取り組みの独創性、革新性、成果について説明してください）				
私が所属する団体は飢餓のない世界を創るために活動している国際協力 NGO です。 活動の1つとして、学校を対象とした活動としてお手紙コンテスト「いただきます」と「ごちそうさま」をありがとうを開催しました。「子どもたちにもっと『食』の大切さを実感してもらいたい」「世界の飢餓について、自分の暮らしとのつながりから考えてほしい」という想いで、自分の食を支えてくれる人に感謝の想いを綴るメッセージカードをHFWが作成し、それを授業で使ってもらおうという取り組みを行いました。年度末の時期に実施したため、家庭科や社会科、総合のまとめとして学年単位で活用していただき、結果として、17の学校や団体から1040通の応募があり、多くの学生に食の大切さを考えてもらうことができました。 他にも当団体の青少年組織が10月にサルベージ・パーティ形式のハロウィンイベントの開催をサポートしました。サルベージ・パーティとは家にある余った食材を持ち寄り、それをその場でプロのシェフが料理するイベントです。去年は若者の間でハロウィンが人気であったことから、ハロウィンを切り口に食や飢餓を考えてもらうイベント開催。当日は仮装やプロの料理を楽しみつつ、「食」について考えてもらうようなワークショップを学生たちが実施しました。通常、飢餓や食料問題をテーマとしたイベントを開催すると、すでにそういった問題について関心を持っている人が多く参加していました。しかし、ハロウィンのように変わった切り口を用いたことで、それまであまり飢餓や食に関心の持ていなかった若者も参加し、約60名の若者が飢餓や食について意見を交わすことができました。				
・お手紙コンテスト「いただきます」と「ごちそうさま」をありがとう http://www.hungerfree.net/special/topi_12.html ・ハロウィンパーティの記事 http://youthendinghunger.net/japan/?p=124				
ESD活動をさらに深めるために、今後どのような活動を展開していこうと考えていますか？				
今後、当団体で作成した「食」を考えるメッセージカード形式のワークショップ教材を中心に、学校のカリキュラムに沿ったタイミングで活用してもらえるような取り組みを行っていきたいと考えております。お手紙コンテストは、家庭科や社会の授業の中で、それまでの授業のまとめとして活用していただきました。しかし「メッセージカード」形式でありながら、誰かに渡すところまでの流れが十分にデザインされておらず、広がりには課題がありました。そのため今後は、母の日などの記念日や夏休みの宿題などの機会を利用し、教材を使って生徒が学んだことが多くの人に届くように、より「メッセージカード」らしい形で教材を活用していただけるような機会を提供していきたいと考えています。				

ふりがな 氏 名	ごとうだ ようすけ 後藤田 洋介	都道府県	大阪府	
所属/肩書	奈良教育大学ユネスコクラブ 副代表			
私のESD活動	大学キャンパスにテントを張り、小学生、中学生、そしてシカと一緒にESD子どもキャンプを実施している			
ESD活動を表すキーワード	学びの変革	つながり	奈良の世界遺産	
活動の概要（特に、取り組みの独創性、革新性、成果について説明してください）				
■ESD 子どもキャンプ「ESD を体験的に学ぶ」を基本理念に、奈良市のユネスコスクールなどから児童生徒を大学に招き、ESD をテーマにしたキャンプを4年前から実施している。活動は大学を中心に行い、大学のグラウンドにテントを張り、大学内で、キャンプファイヤーを行っている。昨年度のテーマは、“奈良の古写真から未来を考える”とし、昔から残り続けていると思われがちな奈良の風景が、刻一刻と変化し続けており、私たち(大学生・子ども)は自分たちが、この社会を担う一人の当事者であるのだという意識を高められるような取り組みを行った。 成果については、学生一人一人が、教師としての自覚を持つことができたこと、さらに、参加者が持続可能な社会づくりの担い手としての意識を高められたこと。 ■ESD 実践勉強会・・・ESD を学ぶ機会のほとんどが、大学や国の事業で行われていることに疑問を持ち、大学生が自ら学ぶ機会を作りだし、大学内外での ESD の普及を行う活動。本年が初年度の取り組みで、第一回の勉強会では、アフリカの開発経済学を学ぶボードゲームをテーマに、ESD を楽しく学べる勉強会を開催した。第二回は、ESD を通じた仲間づくりをテーマに宿泊研修を行い、“ESD 的なキャンプとは何なのか”を学べる機会を作る。対象に全国のユースを考えている。 ■ユネスコスクール支援奈良市のユネスコスクールを中心に、地域探検、野外活動を支援している。地域探検では、iPad などの ICT を取り入れ、学びの新しいスタイル、また、学習者と地域とのつながりを考えられるような活動を心掛けている。野外活動では、ESD 子どもキャンプなどで学んだ野外活動の知識をもとに、地域のユネスコスクールの支援を行っている。				
・地域と連携した「学ぶ喜び」プロジェクト http://mailsrv.nara-edu.ac.jp/~katohs/manabu2013.htm ・奈良教育大学ユネスコクラブ http://nueunescoclub.web.fc2.com/				
ESD活動をさらに深めるために、今後どのような活動を展開していこうと考えていますか？				
今後の活動としては、大きく3つの展望を持っている。 1点目は、現在所属している団体での ESD の理解を深めることである。勉強会や子どもキャンプなどの活動を通して、ユネスコクラブでの ESD のレベルアップを図りたい。 2点目は ESD の理解を広めるということである。今年度は、ESD 実践勉強会を関西圏のユースを中心に活動を開始した。この活動を通して ESD をさらに広げようと考えている。 3点目は ESD の新たな分野を開拓することである。私は理科教育を主に学んでいる。理科教育での ESD 実践はほとんどが環境分野である。そのほかの分野を開拓することで、ESD の裾野を広げることができると考えている。 以上のように、ESD を団体として深めること、ESD を多くの人に広めること、ESD 自体を深める活動を行っていきたいと考えている。				

ふりがな 氏 名	こばたけ さとみ		都道府県	東京都	
	小畑 怜美				
所属/肩書	・認定 NPO 法人カタリバ ・文京区青少年プラザ b-lab (ビーラボ) 広報				
私のESD活動	"中高生の秘密基地"をコンセプトとした、中高生の居場所と自主プロジェクトに挑戦するステージの提供				
ESD活動を表すキーワード	公民連携	秘密基地	中高生向け施設運営		

活動の概要（特に、取り組みの独創性、革新性、成果について説明してください）

■文京区青少年プラザ b-lab(ビーラボ)の施設立ち上げと運営

b-lab(青少年プラザ)は、東京都文京区に区内初の中高生向け施設として今年4月にオープンし、その施設運営をNPOカタリバが受託をしています。"放課後の秘密基地"をコンセプトとしたb-labは、ほぼ365日オープンしていて、リビングのようなスペースや、勉強、料理、バンド活動、ダンスやバスケ等のスポーツができるスペースがあるほか、文化・スポーツ、進路について相談できるイベントを、年150本実施を目標に日替わりで開催しています。

b-lab は、中高生の自由な居場所であるだけでなく、「きっかけに会う場」であり「一歩踏み出す挑戦のステージ」であると位置付けています。「中高生が、自分のテーマでプロジェクトを作っていく行為がどれだけ生まれるか」が、施設の大きな評価指標です。取り組み例は以下の通り。

- ・ 立ち上げ段階より中高生の参画を重視。「秘密基地を考える会議」を毎月開催。延べ 100 人の中高生が参画し、b-lab の愛称や施設の内装決め、フリーペーパー製作、PR イベントなどを実施。
- ・ 中高生ボランティアスタッフの運営。(これまで、110 名程が参加)
- ・ 学生スタッフと中高生のコミュニケーションに注力。親(縦)でも友だち(横)でもない、ナナメの関係から子どもたちの「やってみたい」を引き出す。
- ・ 地域の学校支援のアウトリーチを行う。また、学校訪問や先生向け b-lab 活動レポートの定期配布を実施。
- ・ 成果として: 約 1,500 名/月の来館者、中高生自主企画の発足、区立中学校全校へのアウトリーチ、近隣地域との連携事業開始など。

・文京区青少年プラザ b-lab(ビーラボ) <http://b-lab.tokyo>
 ・認定 NPO 法人カタリバ <http://www.katariba.or.jp>

ESD活動をさらに深めるために、今後どのような活動を展開していこうと考えていますか？

青少年プラザb-labに、(1)中高生の「居場所」と「ステージ」の場づくりと、(2)子どもたちの子どもたちによる自主プロジェクトが立ち上がる文化を実現させます。また、今後は地域の学校支援において、多様な形のアウトリーチを拡大していき、b-labと学校の連携をさらに強化させたいと考えます。地域の学校との連携の先に、より子どもたちにとって持続可能な成長の環境を模索していきます。

ふりがな 氏 名	さかた みゆ 坂田 弥優	都道府県	東京都	
所属/肩書	・All Japan Youth Eco-club メンバー ・North-East Asia Youth Peace Camp カウンセラー			
私のESD活動	小さなことや身の周りのできる活動から自分も人と繋がり、人と人とも繋げて広げていく活動			
ESD活動を表すキーワード	環境	平和	繋がる	

活動の概要（特に、取り組みの独創性、革新性、成果について説明してください）

All Japan Youth Eco-club は 3 年前にできた新しい環境活動グループ。所属しているメンバーは平成 7 年からスタートした、日本環境協会こどもエコクラブに幼児から高校生の間所属し、全国各地で活動していた OB・OG のユースメンバー。私も小学校から高校まで広島で環境活動をずっと行ってきた。私の場合は家族で身近な場所でできるものや、地域の人たちと行う活動まで、多くの人との交流を通して環境の大切さを学んできた。

大学生になった今、一部の地域だけでなく日本全国、いずれは世界的にも環境活動を広げていきたいと考え、現在私たちは全国各地にいるこどもエコクラブメンバー同士や大人のサポーター同士の交流を中心に行っている。

全国のこどもエコクラブのメンバーが集まる場でこどもエコクラブのこどもたちを繋げるようなアクティビティを行ったり、サポーターだけの交流・勉強会を行ったり、「ユースが行く！」という月一回の掲載を行い、他のこどもエコクラブの子たちがどんな活動をしているのか、ユースメンバーの体験を踏まえた記事も作っている。

また、環境活動以外にも平和活動として北東アジア中高生ピースキャンプという日本、中国、韓国の中・高校生を中心としたピースキャンプに中学の頃から参加し、平和とは何かだけでなくお互いの文化や価値観を知り、自分の国以外の同世代と触れ合うことでお互いを知る活動に参加してきた。大学生になった現在もその時にできた仲間とは SNS などで繋がっているだけでなく、今年の夏には、日本で行われたこのキャンプでサポーターとして参加した。

私は誰かと誰かをつなげるだけでなく、自分も誰かと繋がり、誰かと繋げるというのを目標に環境や平和活動を続けている。

・All Japan Youth Eco-club 活動レポート <http://www.j-ecoclub.jp/topics/info/201503182115.html>

・中国新聞記事 http://www.hiroshimapeacemedia.jp/mediacenter/article.php?story=20120924163305429_ja

ESD活動をさらに深めるために、今後どのような活動を展開していこうと考えていますか？

現在行っている活動には、大人や子どもも多く関わっている。ここで得た知識や活動を大人や子どもたちに伝えるだけでなく、大人の人たちにも、若者たちの考えを知ってもらい働きかけを行っていききたい。世代を超えた考えを作るためにも私たちの世代が架け橋になるようなツールを作らなくてはいけないと思う。また、SNS などの多くの人が情報交換できる場での報告に加え、この場で知り合った人たちとコラボした企画等を継続的に行っていきそれも同時に配信したい。環境と、平和という分野だけでなく、他の私の知らない分野と私の知っている分野を融合させることで、片方の分野についてのみもともと関心があった人たちも違う分野に目を向けてもらえ、より多くの人に関心を持ってもらえと考えている。

ふりがな 氏 名	ささかわ きりこ	都道府県	茨城県	
	笹川 貴吏子			
所属/肩書	立教大学大学院異文化コミュニケーション研究科			
私のESD活動	日本の農山村における文化と教育の面からの持続可能な地域づくりの実践			
ESD活動を表すキーワード	日本の農山村での地域おこし	地球市民	文化の多様性	

活動の概要（特に、取り組みの独創性、革新性、成果について説明してください）

大学卒業後、総務省の事業である地域おこし協力隊として茨城県常陸太田市里美地区という農山村に移り住み、その地域の地域活性化事業に携わってきました。一緒に協力隊として活動を行っていたメンバーが、「清泉女子大学地球市民学科」の卒業生という全国的にも珍しい特徴を持っていたことから、「農村と都市、人と人、地域と地域、それらのつながりを大切にしたい」という活動コンセプトをもとに、フランス語で「つなぐ・むすぶ」という意味を持つ「Relier(ルリエ)」というチーム名をつけ、「地球市民学」をキーワードに活動を行ってきました。

チームの中で私は、「地域資源の利活用」担当として「文化と教育」を軸に、地域の子どもたちへの地域資源を活かした授業や、県内の大学を対象にしたフィールドワークのコーディネーターとして活動を行ってきました。これまでの活動を通して少しずつではありますが、当初はあきらめムードであった地域の人や自分たちの地域に無関心であった子どもたちの中に当事者意識の芽生えや、地域への誇りの回復が見られるようになりました。

私自身も、約 5 年間の地域での暮らしや活動を通して、一見課題だらけに見えていた日本の中山間地域には、持続可能な社会やこれからの未来を築いていくうえでのたくさんの可能性や学びの要素が潜んでいること実感するとともに、日本の地方という場所は「残したい未来への価値観」に溢れる最先端の場なのだと考えるようになりました。協力隊の任期が終了した現在も、地域に住み続けながら Relier というチーム名で、日本の地方から持続可能な社会を実現するべく、様々な地域活動やチャレンジを仲間や地域の方と一緒に続けています。

・総務省広報誌掲載記事 http://www.soumu.go.jp/main_content/000194298.pdf

・ゆたりに掲載記事 http://www.yutari.jp/chihou/chihou_satomi/

ESD活動をさらに深めるために、今後どのような活動を展開していこうと考えていますか？

私は現在、地域で活動を続ける一方で、これまでの経験の整理と学術的に見識を深めていきたいという想いから、週の半分を都内の大学院に通い、ESD について研究しています。協力隊の任期中に、現在の地域活性化が経済の活性化に重きを置いたもののみで語られていることに違和感を覚え、そのような狭義の意味での地域活性化から持続可能な地域づくりのための、広義の意味での地域活性化への捉え直しが必要だと感じました。今後は、大学院での学びを地域に還元すべく、現在も一緒に活動を行っている仲間が立ち上げた団体の特別研究員として、自身のフィールドである里美地区にて、「地球市民を育むムラ」というコンセプトをもとにした教育事業や地域活性化に携わる人材育成のための地域を学びのフィールドとした活動を行っていく予定です。現場での実践を行いながらも、そこで起きている現実の中から理論を構築していけるような研究を続けていきたいと考えています。

ふりがな 氏 名	しのだ まほ	都道府県	東京都	
	篠田 真穂			
所属/肩書	・ 早稲田大学大学院アジア太平洋研究科国際関係学専攻 ・ ユネスコ・アジア文化センター（ACCU） インターン			
私のESD活動	実践（学生への経験の場作り）と机上での学習（大学での研究）を繰り返し行いながら ESD を模索しています			
ESD活動を 表すキーワード	つながり	Think globally, Act locally		
				SD の 3 本柱（経済・社会・環境） のバランス

活動の概要（特に、取り組みの独創性、革新性、成果について説明してください）

私は今まで「研究」という形で ESD に関わってきました。私と ESD との出会いは大学 3 年時です。それまで私は、YMCA でボランティアリーダーとして発達障がいがある子どもたちと関わる中で、日本の画一的な教育への疑問を持ちました。子どもたちの個性を伸ばす教育が日本の教育において可能なのか考えている最中、総合的な学習の時間の可能性に関して考えるようになりました。多くの事例研究や、学校訪問を重ねていくうちに、総合的な学習の時間を有効に活用している学校が「ユネスコスクール」だということがわかりました。このような積み重ねから、卒業論文では東日本大震災を機に定期的に訪問している宮城県亘理郡にある山下第一小学校にて ESD を軸にした総合的な学習の時間のカリキュラム開発を行いました。それ以降、ESD の概念が国内に留まらず国際的な動きになっていることを知り、現在は大学院にて国際的な ESD の動向についての分析を行っています。

実践に関しては、一般社団法人くまプロジェクトで亘理郡山元町をフィールドに学生の経験の場の提供を継続的にこなしてきました。この団体では毎回の企画・運営も学生がすべて行います。私は、ESD の良き所の1つである机上の学習と実践をつなげることに焦点を当て参加学生の専門分野を実際に活かすことができるような企画をしています。一昨年の 12 月には芸術大の学生に参加を呼びかけ、地域のイベントであるイルミネーションのデザインから実施までを地域の方と共に行いました。彼ら学生の机上での学習が、震災で失われたコミュニティの再形成の一助となるような企画をし、現在も継続的なイベントとして毎年行われています。

ESD活動をさらに深めるために、今後どのような活動を展開していこうと考えていますか？

今後は、ESD の実践にさらに力を入れていきます。今年末から、ある自治体の「子どもの遊び場（プレイパーク）」の運営に関わることになっています。そこでは、プレイパークを中心とした持続的なコミュニティづくりに貢献していく予定です。また、ユネスコ・アジア文化センター（ACCU）に昨年度からインターンとして関わっていますが、来年度からは職員として携わることになっています。そこでは、ユネスコスクールの普及と ESD 研究をさらに進め、今後 ESD の専門家を目指すべく邁進していきたいと考えています。このように、来年度からはプレイパークと ACCU の職員として研究と実践の両輪を回しながら、地に足のついた ESD の実践を着実に進めていく予定です。

ふりがな 氏 名	しらい たつま	都道府県	神奈川県	
	白井 龍馬			
所属/肩書	横浜女学院中学校高等学校 教諭・ ESD推進プロジェクトチームメンバー			
私のESD活動	教科横断型の授業やワークショップを積極的に行い、 生徒の価値の転換や「6つの力」の養成に努めています			
ESD活動を 表すキーワード	教育	人権	価値の転換	
活動の概要（特に、取り組みの独創性、革新性、成果について説明してください）				
私は横浜女学院中学校高等学校にて ESD 推進プロジェクトチームメンバーとして活動しています。本校は本年度SGH（スーパーグローバルハイスクール）アソシエイト校として文科省に認定を受けました。その申請にあたり中心に据えた教育の概念が ESD です。その推進メンバーとして、様々な活動をしてきました。 まず、自己研鑽のために多くの研修に参加しました。上智大学の小松先生には学校にお越しいただき、ESD の意義についてご説明いただきました。自身が抱いている ESD に関する考えを質問させていただける場もあり、非常に濃密な研修でした。また開発教育協力の上條様が本校生徒に向けて貿易ゲームの実践をして下さった際にはその場を見学させていただき、次回は自身がファシリテーターになるつもりでその活動を拝見させていただきました。価値の転換を図るワークショップの可能性に、改めて強く興味を持ちました。 次に、日々の授業において ESD の視点を多く取り入れています。ESD の視点を生徒に感じてもらうためには、単一教科の領域を越えていく必要があると感じています。したがって他教科の先生と協力することによって、クロスカリキュラムの形態をとった授業を展開することを行っております。実践例としては、理科の先生と協力し最新の理科の論文を生徒に読ませる活動をしました。しかしその論文は実は統計的な信頼妥当性に欠けており、それについて生徒たちに考えてもらうことで、「データや情報の分析能力」を養うきっかけを作ることができた、と考えています。				
・横浜女学院中学校・高等学校 http://www.yjg.y-gakuin.ed.jp/blog.html				
ESD活動をさらに深めるために、今後どのような活動を展開していこうと考えていますか？				
ESD を意識したクロスカリキュラム（教科横断型）の授業を数多く展開しようと考えています。そのためには他教科の先生との相談が不可欠であり、その相談の場を充実させるためにも他教科の先生には ESD についてより深く知っていただかなければなりません。よって自身ができるだけ多くの研修に参加し、あるいは書籍に目を通し、その内容を他教科の先生方に伝えていきます。 また、できるだけ生徒が持続可能な発展ということばを直接感じるができる場を用意したいと考えています。今までには文化祭におけるフェアトレード物品の販売など行ってきましたが、そのような活動の場をより多く展開していきたいと思います。				

ふりがな 氏 名	しん ゆういちろう	都道府県	兵庫県	
	新 友一郎			
所属/肩書	兵庫県立加古川東高等学校 教諭			
私のESD活動	課題研究におけるヒートアイランド現象の観測実験と国際交渉の外交交渉模擬体験授業			
ESD活動を表すキーワード	コミュニケーション能力	環境	多文化リテラシー	

活動の概要（特に、取り組みの独創性、革新性、成果について説明してください）

私は高等学校の地理歴史科の教師として、日々の授業の中でESDに関わる活動をしています。その中でも、SSHに指定されている勤務校での課題研究で行っているヒートアイランド現象の観測実験と、昨年度に実践した神戸大学発達科学部と共同で実施した「Independence Day」という国際交渉の模擬体験授業に関して説明します。

まず、ヒートアイランド現象の観測実験は現在本校生徒2名と共に研究を行っています。生徒が居住している東播磨地域は海沿いの古くからの市街地域、郊外に残存する田園地域が帯状に広がります。田園地域と都市地域が隣接する地域において、ヒートアイランド現象の現状を解明することを目的としています。計測の過程では、実験装置の制作、自ら自転車を用いて計測をする手法など、生徒自らが主体的に取り組むことができるよう工夫をしています。また、海陸風と各地の気温の関連性を調べることで、ヒートアイランド現象の改善に向けた提言を行うことも視野に入れています。

そして、国際交渉の模擬体験授業は、戦後日本をモデルにソ連との冷戦構造や朝鮮戦争という国際情勢の変化も盛り込んで、生徒を日本側とアメリカ側に分け、双方ともに安全保障・経済などの面で自国により有利な条件で独立条約を締結するための交渉を行うという内容です。アクティブラーニングの側面もあり、生徒たちは真剣に考え積極的に相手と交渉をし、6つの班それぞれが独自の条約内容を締結しました。現代社会では経済発展段階が異なる国同士がお互いに持続可能な発達のためにどれだけ納得のいく同意ができるかが重要だと考えます。これからの世界をリードする生徒たちにとって大きな経験をさせることができました。

ESD活動をさらに深めるために、今後どのような活動を展開していこうと考えていますか？

現在私が担当している生徒を見ていると、知識としては、環境、貧富の格差、人権などの世界的課題についてよく理解していると思います。しかし、それらの問題の解決という観点でいえば、インターネット上に氾濫する雑多な情報の影響を一方的に受けていて、十分なクリティカルシンキングを持って自分の考えを構築するまでは至っていないとも感じられます。国際社会で活躍するためにメディアリテラシーをしっかりと持って、地球規模の問題解決をできる人材育成を行う必要があると実感しています。狭義のナショナリズムに陥ることなく、地球規模の問題解決を図ることができる人材育成が今後のESD活動に必要なことだと思います。私が専門とする地理の授業を通して、世界的な視点を持って国際社会を主導する人材育成を図るための授業をしていくことが必要ですし、そのためにもESD活動を学校全体で教科横断的に進めることが必要だと考えています。

ふりがな 氏 名	すがわら あつし 菅原 淳史	都道府県	宮城県	
所属/肩書	宮城県多賀城高等学校 教諭			
私のESD活動	東日本大震災以降、当時学校が被災した英語科の教員として、国際理解教育や防災教育に力を入れてきた			
ESD活動を表すキーワード	国際理解	防災	自然科学	
活動の概要（特に、取り組みの独創性、革新性、成果について説明してください）				
私がこれまでにを行った活動は大きく分けて以下の3点である。 ・1つ目は平和教育である。地雷についての調べ学習を行った。そして発表、展示した。日本の高校生にとって縁遠い存在であることを調べることによって、自分自身のこととして考え平和について深く考えることができるようになったと思う。 ・2つ目は国際理解である。東日本大震災以降、当時学校が被災した英語科の教員として、被災した現状を海外にも伝えようと生徒たちを積極的に海外へ派遣してきた。海外派遣に際し、生徒たちが経験した震災について当時の被災した様子とその後の復興の様子についてどのように伝えたら良いのか取り組んできた。また、被災経験だけを伝えるのではなく、日本人の高校生が今どのようなことを考えているのか日本の文化や価値観も踏まえて伝えるように指導した。海外での経験は生徒たちにとって有意義なものになった。生徒たち自身がより積極的に自分自身を表現し、今後被災を経験した日本人としてどう情報を発信していくべきなのか考えるようになったのを強く感じた。 ・3つ目は防災である。現在転勤してきた学校では生徒ひとりひとりに登校時や下校時にどのような危険箇所があるのか防災マップを作成させ、災害時にどう行動すべきなのか考えさせた。マップを作成している時に自分の登校している場所に多数危険箇所があった生徒たちは災害時の通り方など真剣に取り組んだ。生徒たちの被災した記憶も段々と薄れていく中で、災害時のことを再確認することで防災に対する意識が高まったと考える。 以上の平和教育、国際理解、防災がこれまでに私が行って来た活動である。				
・宮城県多賀城高等学校 www.tagajo-hs.myswan.ne.jp/				
ESD活動をさらに深めるために、今後どのような活動を展開していこうと考えていますか？				
今回のコンファレンスに参加し得た情報や学びをもとに今後私の勤務校で行われていく防災教育、自然科学教育、国際理解教育についての一助となるだけでなく、同僚教員はもとより、生徒たちに還元していくことのできるものであると考えている。現在、勤務校ではユネスコ ASP へ参加申請している。今回の活動へ参加し、多様な考え方や情報を持ち帰ることによって本校が ASP に貢献する活動を行う上で有意義なものになると考えている。 また、個人としては今後の教育活動において、海外の方を招いた出前授業や、異文化交流、異文化理解、生徒たちによる被災体験の資料作りや海外の方の震災地案内などに生かさせていくものであると考える。特に、現代の子どもたちはグループワークやプレゼンテーション能力が重要となる中、このような能力を養っていく活動を展開したい。				

ふりがな 氏 名	すぎかわ こうた		都道府県	広島県	
	杉川 幸太				
所属/肩書	・広島大学大学院工学研究科 助教 ・大学教育を考える会				
私のESD活動	大学のボトム(学生と教職員)からの本質的な大学教育改革を目指し、考えて行動する場の提供を目指します				
ESD活動を表すキーワード	教育改革	大学教育	教職員		

活動の概要 (特に、取り組みの独創性、革新性、成果について説明してください)

■問題意識・・・私は広島大学で化学を専門とした教員(助教)です。大学教員の役割は研究と教育ですが、大学入試改革に端を発する教育改革が急ピッチで進むことが予想される現代において、大学の教育的役割の比重が大きくなることが予想されます。ところが、ほとんどの大学教員は研究者としての教育しか受けておらず、教育者としては素人です。入学してくる学生も社会に存在している課題も多様化する中で、「良い研究＝良い教育」という一辺倒な教育だけでは、学生がこれからの社会で生き抜く力を養うことはできません。私は大学教育に「本質的な改革」を起こすために下記の ESD 活動を行っています。

■活動内容・・・上記課題の解決を目指すにあたり、私は「大学教職員」に注目しました。学生と直接関わることができるのは教員だけです。どんなに素晴らしい大学改革案も、教職員の主体的関与なしには本質的な改革にはつながりません。私は「大学教育を考える会」を立ち上げ、「大学教職員から大学教育を変える」ことを目指し活動を行っています(参考 URL1)。この会の特徴は①大学教職員が自身の教育的取り組みを発表(共有)することができる(教育的活動が評価される場づくりの一環)、②その発表に対して大学内外の専門家からアドバイスを受けることができる、③大学教職員以外(学生、民間企業、省庁関係など)の参加者が半数近くを占める、ことです。

スタートして1年足らずの活動ですが、この会への参加をきっかけに大学教職員向けのワークショップや、高校生が大学に行く意味を考える場づくりを目指した活動(参考 URL2) がスタートしており、確実に大学と社会を繋ぐプラットフォームになってきています。

・参考 URL1 www.facebook.com/think.edu.2014

・参考 URL2 <https://sites.google.com/site/eduatcollege/>

ESD活動をさらに深めるために、今後どのような活動を展開していこうと考えていますか？

まずは現在行っている「大学教職員から大学を変える」ための仕組み、つまり①大学教職員の教育的活動が評価される場＋②今の大学に求められる教育を提供するための具体的スキルが身につく場＋③大学と社会がつながる場、の構築を進めていきます。最も難しいのは「評価される場」にすることです。現状、どんなに教育に力を入れても大学内での評価には反映されません。この現状を変えるために、大学教職員の教育的活動を紹介する web コンテンツの作成(社会的評価の場)と、企業および文科省と連携したコンペの開催(大学内の評価システム(業績)に記載できる発表の場)を目指しています。また、大学教職員が学生の声を聞くことも大切だと考え、大学生や高校生と大学教職員が議論を行う場づくりも計画しています。これにより、学生に大学の正しい情報を伝えることも可能になると考えています。そして、これらの活動を行うための資金調達も行っています。

ふりがな 氏 名	せがわ みか 瀬川 美華	都道府県	東京都	
所属/肩書	国連難民高等弁務官駐日事務所インターン			
私のESD活動	米国を中心に海外で ESD 活動を行ってきた。The 2015 KNCU International Workcamp では、世界中から集まった青年と平和構築や環境保護について学ぶ			
ESD活動を 表すキーワード	地域活性化	人権	平和構築	
活動の概要（特に、取り組みの独創性、革新性、成果について説明してください）				
私がESD活動に目を向ける大きなきっかけとなったのは、サンフランシスコ日系人コミュニティの中心機関である Japanese Cultural and Community Center of Northern California (JCCCNC)が提供している奨学金プログラムに参加したことです。Kase Scholarship Programに参加し、日系文化保護プロジェクトを行いました。このプロジェクトを通し、現在アメリカに存在する3つの「日本街」を後世に残したいという日系人の強い想いとそれに対する政治的、経済的な問題点も学ぶことができました。カリフォルニア州在住の日系2世や3世と交流したことで日系人が受けた人種差別や迫害について当事者の声を直接聞くことができたことも貴重な経験でした。また、次世代のESD実践者でTakahashi Youth Ambassador Fellowship Programに参加している現地の高校生に日本語を教え、The JCCCNC 40th Anniversary Eventでは彼らと共に\$6,000 の寄付を集めることができました。さらに、日本街を盛り上げるには日本人と日系人が協力する必要があると強く感じたことから、日本人留学生が多く所属する学生団体Japanese Students Association (JSA)で副委員長を勤めました。ボランティア情報をJSA Facebook上で定期的に配信したことで、日系コミュニティに対する関心を広めると同時に地域イベントでJSAボランティアの数を増やすことができました。私はJCCCNCが提供している教育プログラムに参加した初めての日本人でしたが、人権や地域開発の分野に目を向ける大きなきっかけとなる経験となりました。				
ESD活動をさらに深めるために、今後どのような活動を展開していこうと考えていますか？				
ESD 活動において、様々な価値観を受け入れることの大切さや視野を広げることの大切さを世界中の青年と共有していきたいです。The 2014 TOMODACHI Summer SoftBank Leadership Program では、Resident Advisor としてグローバルリーダーシップとコミュニティサービスを学ぶ学生のメンターを任されました。ワシントン DC で行われた The 2014 National Service Learning Conference では、世界中から集まった青年と世界平和や社会貢献について学び、個々が持つ経験やスキルをどのように地域活性化に繋げていけるか意見交換をすることができました。第二回 ESD 日本ユース・コンファレンスでは、自身のこれまでの ESD 活動を踏まえながら、平和と人権、そして地域活性化について他の参加者と話し合い、共に考えたいです。変革的なリーダー (Transformative Leader)になるために必要な知識とスキルを身につけ発揮していくことで、同世代や次世代にESD活動を呼びかける良きメンターとしての役割を担う存在になりたいです。				

ふりがな 氏 名	たかはら れいな	都道府県	大阪府	
	高原 麗奈			
所属/肩書	NPO 法人箕面こどもの森学園 専任スタッフ			
私のESD活動	学習者の主体性と協働をはぐくむ学びを目指して ～箕面こどもの森学園での実践～			
ESD活動を 表すキーワード	主体性	協働	多角的な視点	
活動の概要（特に、取り組みの独創性、革新性、成果について説明してください）				
私は2013年よりNPO 法人箕面こどもの森学園で、ESD 活動に携わってきました。学園では、持続可能な社会の実現に向けて『子どもたちの主体性、協力し行動すること、多角的な視点で自ら考え判断すること』など ESD の要素を学びの中心に据え活動を行っています。 『子どもたちの主体性を育む』活動として、子どもたち自身で学習計画をたて、自己選択・決定の経験を重ねることにより、学びは自分自身のためにあるという主体性の育成を目指しています。 また『協力し行動すること』は、全校集会で学校行事やルールを決めること、トラブルが起こった時に子どもたち同士で話し合いをすることなど、学校のコミュニティのなかで協力して行動する経験の積み重ねを大切にしています。また、話し合いの場では、多数決でなく全員が納得できる意見がでるまで議論を行います。これらのことにより、自分の意見を表現すること、異なった立場・意見の人を理解することを経験し、他者と折り合いをつけながら学校生活を営むことを通して協力し行動する姿勢の育みを行っています。 『多角的な視点で自ら考え判断すること』は、平和・人権・環境・市民性教育などの分野で行うテーマ学習で、子どもたち自身が社会のできごとや課題との関わりを実感しながら学ぶ参加型学習を通して育んでいます。このテーマ学習では知識を受け取るだけではなく、本物に触れ体験し、様々な角度から考え本質を見抜く視点を大切にしています。 これらの取り組みの成果として、「主体的に学ぶ姿勢」や、「みんな違って当たり前」という多様性を認める雰囲気が醸成されていることが、子どもたちが見せてくれている成長と学園の活動による変化の一つだと感じています。				
・NPO 法人箕面こどもの森学園 HP http://kodomonono-mori.com/ ・NPO 法人箕面こどもの森学園 中学部ブログ http://kodomonono-mori.com/chugakubu/blog/				
ESD活動をさらに深めるために、今後どのような活動を展開していこうと考えていますか？				
現在の ESD 活動をさらに深めるために、子どもたちが地域、社会、世界との関わりとの中で有機的に学ぶことができる環境作りを進めたいと思っています。学校の中だけでなく地域社会に出かけ、様々な方と出会い、体験することを通して、子どもたちが生きた社会のなかで社会のできごとや課題を考えることができる学び場づくりをしたいと思っています。また今年の1月に学園がESDを推進するユネスコスクールへの加盟に承認されたこともあり、今後は日本と世界のユネスコスクールのネットワークを活かし、子どもたち同士が交流しながらお互いの国や文化などの理解を深めることができる機会づくりができればと思っています。また学習者の主体性を引き出すファシリテーションについて、さまざまな現場で教育に関わる方々と、実践をともに学び、共有していきたいと思っています。				

ふりがな 氏 名	ただ ひびき	都道府県	神奈川県	
	竹田 響			
所属/肩書	中央大学総合政策学部国際政策文化学科			
私のESD活動	分断状態における「相手の日常の暮らしが想像できない」状態を解消させ紛争を予防する（現在は日朝交流）			
ESD活動を表すキーワード	平和構築	分断解決	青年交流	
活動の概要（特に、取り組みの独創性、革新性、成果について説明してください）				
私はこれまで平和構築と人道支援の分野に関心を抱き、国家や地域間の分断状態をいかに解決できるかという点に着目してきた。2013 年春に行われた“TICAD V Student Summit”でアフリカ各国から日本に留学していた学生 50 人と日本の学生 50 人で 10 日間かけてアフリカ大陸における平和と安定についての政策提言を行ったのを皮切りに、2013 年冬には日本政府の Jenesys 2.0 の枠組みの中行なわれた「日 ASEAN 学生会議」に日本代表青年として選出され青年期におけるボランティアリズムについて政策提言を行った。昨夏からは朝鮮民主主義人民共和国（以下 DPRK）・平壤にある平壤外国語大学で日本語を学んでいる学生との日朝大学生交流事業に携わっており、今夏も 2 回目の渡航をし、平壤外国語大学で日本語を学んでいる DPRK の大学生との交流を行う予定である。 日本と DPRK は国交が断絶された状態となっており、お互いがお互いの日常を想像することができていない。しかし私も現地に行って初めて知ったのだが、DPRK は 2015 年 7 月 1 日現在で 135 カ国と国交を結んでいる状態であり、国交が締結されている国からは多数の観光客が入っている。私たちの親の世代では、北朝鮮という言葉聞いただけで激しい嫌悪感を示す人が少なくないが、私たちの世代になると、当事者性が薄くなってきたことやいわゆるグローバル教育を受けてきたことも関係しているとは思いますが、「え、平壤って行けるの…？」という点から入り、「（行けるなら）行ってみたい」という発言をする人も一定数いることが分かってきた。相手が想像できない状態でも、仮に行きたい人が一定数いるのであれば分断状態を解決するための糸口となりうるかもしれないと考え、現在意識調査を実施中である。				
・南北 코리아 と日本のともだち展 http://homepage2.nifty.com/2002/friends/ ・코리아こどもキャンペーン http://homepage2.nifty.com/2002/rccj/				
ESD活動をさらに深めるために、今後どのような活動を展開していこうと考えていますか？				
今年で実施 4 年目を迎える日朝の大学生交流は両国における今日の最前線事業である。現在は DPRK の学生 12 人に対して、日本人学生が 6 名～7 名参加して平壤で交流を行う、という形態をとっている。私個人としては日本人の参加学生をもっと増やしていきたいのだが、ヘイトスピーチや現地の受け入れ体制などの問題により、この規模での運営形態となっている。非常に有意義かつ貴重な活動を行っているのだが、広報という面ではまだまだ課題が残っている。DPRK という国を日本で語る場合往々にしてネガティブなイメージしか人々は抱いていないため、学生交流を行っているという話をするだけで非常に驚かれる。また、そもそも（私も渡航前はそうだったのであるが）DPRK に渡航することができるのか、安全性は大丈夫なのかといった点から疑心暗鬼になってしまうという状態がある。私自身の体験談などを発信していくことこそが活動を広めていく為の第一歩であるように感じている。				

ふりがな 氏 名	たびらき かんたろう 田開 寛太郎	都道府県	東京都	
所属/肩書	東京農工大学大学院連合農学研究科博士課程			
私のESD活動	富山県を舞台に、大学生が地域協働を通して、環境教育を軸とした大学間横断プロジェクトを展開しています			
ESD活動を表すキーワード	環境教育	社会教育	野生生物復帰	
活動の概要（特に、取り組みの独創性、革新性、成果について説明してください）				
ESD を戦略的に一層推進するため、若者が担う役割が注目されている。私は、富山 ESD 推進プロジェクトとして、富山県内の若者（大学生）が地域協働や環境教育・ESD の活動に取り組むための団体 ToyamaResCo（通称「トヤマレスコ」）を立ち上げた。ToyamaResCo は、3 つの“Co”を理念に活動を展開する。 1) College コレჯ : ToyamaResCo のメンバーは、富山県内全ての大学から学生を募り構成される。定例会（月 1 回）を実施し、地域活性化や ESD に関する様々な分野のことを学ぶ。例えば内容は、実際に中山間地域や人口減少が激しい地域で、地域活性化に寄与する活動実践者より話題提供いただき参加メンバーで議論を交わし学びを深める。 2) Community コミュニティー : 地域行事やイベントに若者が参加することは、地域活性化に寄与すると考える。また、そのような参加を通し地域と関わることは、地域の良いところを発見するきっかけをつくり、各地域の魅力や特性を活かした地域協働、環境教育・ESD の開発と実践をする上でも重要である。地域行事は、地域の祭事であるお神輿の担ぎ手や、里山の自然散策路の整備など道普請への労力を要員されることもある。 3) Collaboration コラボレーション : 地域の魅力を抽出するためのワークショップを開き若者と地域住民とが話し合う場を作る。前段の“コレჯ”、“コミュニティ”の活動を若者力で繋げ活性化し、地域の魅力や特性を活かし子供を対象とした ESD へと昇華させる。そのような開発過程の中で、若者は地域の課題と身近な暮らしを結び付け、それらの課題の解決につながる新たな価値観や行動を、若い感性で発想し磨き上げる。				
・ToyamaResCo の Facebook ページ https://www.facebook.com/esd.toyama?ref=bookmarks ・NPO 法人きんたろう倶楽部HP http://kintaroclub.org/				
ESD活動をさらに深めるために、今後どのような活動を展開していこうと考えていますか？				
富山県での ESD プロジェクトをまずは継続させたい。ToyamaResCo プロジェクトの現状より、次のような課題が挙げられる。①プロジェクトの継続性とメンバーシップの保持、②地域人材育成の充実、③地域におけるネットワークの拡充、④ESD 普及啓発である。 いくつかの課題解決が求められるが、特に若者による柔軟な発想を重視する。地域におけるネットワークを拡充させ ESD を一層推進したい。特に地域外からの客観的な意見は、地域へ新たな知見を与える。地域はこれまでに気づかなかった課題だけでなく、魅力や特性を再発見することにも繋がる。そこで、若者が自発的に柔軟な発想を持ち発言を行える場づくりを重視する。同時に地域住民だけでなく多様な主体の参加を誘致するため、各自治体と連携しネットワークの拡充を図ることも重要である。具体的には、東京—富山間を繋ぎ、地域づくりやインバウンド観光へと展開し、若者が活躍できる場を創出する。				

ふりがな 氏 名	チア ム カイ デニス Chia Mu Kai Dennis	都道府県	東京都	
所属/肩書	東京大学大学院修士			
私のESD活動	多角的視点から災害と文化を学び、持続可能な将来の実現するためのヒントを探る			
ESD活動を表すキーワード	意識	革新	創造力	
活動の概要（特に、取り組みの独創性、革新性、成果について説明してください）				
東日本大震災後に瓦礫撤去や産業訪問など、数々な活動に関わっていた。しかし、時間が経つにつれ、東北の沿岸部の課題が変わっていくので、とりあえず現状を知って現地から学ぶべきだということで、2014 年に 11 ヶ国からの参加者を集め、宮城県南三陸町でスタディツアーを行った。スタディツアーのテーマは「過去を振り返りながら前を向く」。私は特に「前を向く」ことにこだわっている。震災後に、語り部などの「震災を振り返る」ことを目的とした活動が多いが、私から見ると、振り返ることは否定しないが、「あれから 5 年」ではなく、「これから 5 年」というところに焦点を当てたほうがいいのではないかと思った。震災をきっかけにエネルギー問題、防災、都市計画などといった様々な社会問題が浮き彫りになった。そのため、現在行われている活動のほとんどは「持続可能な将来」を目指しているのではないかと思う。そういう「持続可能な将来」を目的にした活動について学ぼうと思って活動を企画し始めた。ちなみに、活動資金はクラウドファンディングで調達した。 スタディツアーで訪問した方は次の通り。本来なら漁業が盛んな南三陸町は震災によって破壊され、その代わりに農業に目を向けて活動し、現在は南三陸町最大級の農場を運営している OGA という NGO のアメリカ人女性代表、電子部品を扱っていた工場が流され現在は鞆作りに励んでいる会社社長、南三陸町のゆるキャラにもなったオクトパス君の工房の方などなど。 成果として、私達は南三陸町では革新的な試みが行われていることを学んだこと。中でも、参加者のひとりが既に OGA の方と次のステップについて話し合いをされている。				
・デニスのブログ http://dennischia.com/2014/09/08/studytour/				
ESD活動をさらに深めるために、今後どのような活動を展開していこうと考えていますか？				
ESD において「意識を高める」ことが核心となると思うので、メディアではあまり取り上げられていないことに焦点をあてるようなイベントを企画しようと考えている。現在は、インドやネパール在住のチベット難民に関する映画を学校内で上映する企画を主催している。多角的視点から物事を見ることによって、視野が広がるので、今後は同様なイベントに参加したり企画したりしたいと考えている。 また、1 年前から NGO ピースボートとピースボート災害ボランティアセンター(PBV)でインターンシップをさせていただいて、災害管理において大変興味があるので、今後も研究を含め、災害と ESD など、ESD の中身の関連性について調べていきたいと考えている。				

ふりがな 氏 名	とくたけ まさや 徳武 雅也	都道府県	茨城県	
所属/肩書	筑波大学社会・国際学群国際総合学類			
私のESD活動	自然環境と人と生活のつながりを探るために、生物多様性保全や自転車交通の事業に取り組んでいます			
ESD活動を表すキーワード	生物多様性	持続可能な都市環境	国土と地域文化	
活動の概要（特に、取り組みの独創性、革新性、成果について説明してください）				
2010 年、名古屋市教育委員会の環境学習事業で愛知の自然環境について学び、同年愛知県で開催された生物多様性条約第 10 回締約国会議(COP10)の国際子ども環境会議に参加した。世界中の子どもたちの代表として本会議の閣僚級会合で演説し、一部が世界の生物多様性保全に関する新目標「愛知ターゲット」に記載される。 2011 年～2013 年の高校在学中、名古屋市教育委員会の環境学習事業の運営に学生スタッフとして参与。また COP10 に携わっていた高校生有志で愛知県環境部・名古屋市環境局・環境省と連携し、愛知・名古屋の生物多様性保全についての普及啓発、保全活動を高校生の視点から行政と協力して行った。具体的には、外来種駆除と調査を目的とした、ため池の池干し事業をイベント化して外来魚を美味しく頂いたり、国連生物多様性の 10 年の記念事業でフォーラムを開催し、生物多様性保全の世代間協力を模索したりした。有志の高校生が生物多様性保全・普及啓発活動に取り組む事例はこれまでにほとんど例がなく、取り組みは行政・教育関係者の注目を集め、県内の高校での ESD 活動の活性化や 2014 年の ESD ユネスコ世界会議に向けた架け橋となった。 大学に進学した 2014 年から現在も、生物多様性わかものネットワーク(環境省 国連生物多様性の 10 年日本委員会のユース枠の団体)に所属し、全国の若者の生物多様性保全を推進する施策に携わっている。また、大学の実践研究授業でつくば市役所と連携し、自転車利用推進事業による地域ブランディング・自転車交通の施策に学生のチームで取り組んでいる。 私の強みは、ESD 活動が自身の学生生活の成長とともにあり、ESD の 10 年の被験者としての経験を物語るができる点である。				
・環境情報誌 Risa 掲載記事 http://www.media-brain.co.jp/images/book/risa2013_11.pdf				
ESD活動をさらに深めるために、今後どのような活動を展開していこうと考えていますか？				
私は今後、持続可能な都市環境について学んでいきたいと考えている。具体的なテーマは、既存の都市基盤の修正・活用やまちのブランディングによって、自然環境と人と生活のつながりを創出することである。そのためには、ESD の幅広い分野のグッドプラクティスに触れておく必要がある。また、昨年度からはこれまでと違うテーマで、日本国土と地域についての調査活動も始めた。 人々の生活と地域に根付く文化、そして日本の国土を肌に感覚で刻み込むため、自転車で日本中を巡っており、昨年度から 8000km 自分の脚で走った。日本における伝統的な暮らし、そして現在への生活基盤・景観の変容には物語がある。私はそうした物語に自然と人と生活のつながり、そして美しさ、「未来に残したいもの」があると感じている。これらをヒントに世界で共有される ESD に、日本的な感性を上手に取り入れたグッドプラクティスを発信していきたいと考えている。				

ふりがな 氏 名	とむら ゆめほ	都道府県	宮城県	
	戸村 夢帆			
所属/肩書	東北大学教育学部			
私のESD活動	教育学部に所属し初等教育を中心に研究。SOS 子どもの村をトピックに、子どもの意思決定に関する論文作成			
ESD活動を 表すキーワード	幼児教育	子どもの意思決定 784	国際関係	
活動の概要（特に、取り組みの独創性、革新性、成果について説明してください）				
私は高校2年生の頃からオランダの初等教育に興味を持ち始め、自主的に調べ学習を進めてきました。オランダの初等教育を学んでいくことを通し、子どもは、私たちが思っているほど未熟な存在ではないため、大人（親、教師、地域の人）に求められる役割というものが時代に沿って変わっていくべきことを痛感しました。それは基本的に、「守る」という考え方の転換です。多くの人や物との出会いを制限してしまう（出会いから守ってしまう）ようでは、子どもの可能性が最大限に発揮されないどころか、望まれない問題も生じてきます。それゆえ現在の私の考えは、子どもが多くを学ぶための「環境を整える」ことが、大人の役割だということにあります。限定的な見方に思えるかもしれませんが、ESDには、教育が大きな役割を果たすと確信しています。教育の中でも特に重要視しているのは幼児教育です。幼児期に生活してきた環境やかけられてきた言葉などは、その子どもたちが成長していく中での選択行動に直接的に、かつ強く影響してきます。子どもにはそもそも、創造する力や好奇心が備わっていると思います。それを壊さないために重要になってくるものは、大人がどこまで子どもの人権を認められるか、というところにあると思います。上記のようなことをふまえ、私がしてきたESDに関係のある取り組みの一つとして、SOS子どもの村をトピックとして扱い、その児童保護制度を通して、子どもの意思決定と最善の利益間の関係性を考えた論文を提示します。大学内の多くの教授とコンタクトを取り、この研究を派生させ、今年設立された宮城県SOS子どもの村や海外のそれへの訪問視察を考えています。				
ESD活動をさらに深めるために、今後どのような活動を展開していこうと考えていますか？				
まずは、大学だけに留まらず、色々なところへ出向いて様々な方法を目で見て、感じ取りたいと思っています。9月のカナダ訪問に加え、今年の冬にはドイツ・ウィーンを訪問し、地元の小学校・幼稚園を視察する予定です。来年の10月からは1年間のウィーン大学への交換留学を通して、様々なバックグラウンドを持つ人々へ、自分の考え・ビジョンを発信していきたいです。そして UNESCO に関わりながら日本の外からだからこそできることをしていきたいと考えています。こういったことをスタートしていく上で、今回のイベントはとても有意義なものになるでしょう。				

ふりがな 氏 名	ないとう けいすけ 内藤 圭祐	都道府県	愛知県	
所属/肩書	名古屋国際中学校・高等学校 教諭			
私のESD活動	『SOCIAL ACTION!』で持続可能な開発を担う人材育成プロジェクトの企画・運営			
ESD活動を 表すキーワード	国際理解教育	貧困問題	フェアトレード学習	
活動の概要（特に、取り組みの独創性、革新性、成果について説明してください）				
1. 国際交流活動・・・国際交流担当として、海外校からの訪問を多く受け入れています。多文化交流を意識し、調理実習（和食やハラルフード）、校外活動（本校生徒との名古屋市内フィールドワーク）等を行っています。 受入実績：2014 年度 96 名、2013 年度 81 名、2012 年度 70 名 2. 国際ボランティア研修の運営とフェアトレード学習活動・・・2011 年度より高校 2 年次にフィリピン国際ボランティア研修を実施しています。認定 NPO 法人アイキャンと研修内容を組み、私は 2011 年・2012 年に引率しました。事後学習として現地のフェアトレード（FT）商品を文化祭で販売する学習を行っています（2013 年度 JICA グローバル教育コンクール・グローバル教育取組部門佳作受賞）。昨年度は FT バナナを輸入し、クレープ製造・販売を通じ「食べる国際貢献」を行いました。（2014 年度同コンクール佳作受賞）。成果報告として、ESD あいち・なごや子ども会議とユネスコスクール全国大会にてポスター発表をしました。 今年度は県内の Aoyagi Coffee Factory と連携し、FT コーヒーを用いた本校独自の商品を製作中です。 3. SGH アソシエイト校としての取り組み・・・今年度より、文部科学省スーパーグローバルハイスクール・アソシエイト校の指定を受け『SOCIAL ACTION!』で持続可能な開発を担う人材育成プロジェクトをテーマとして活動を行っています。私は副主任として本活動に携わり、既存の貧困学習を発展させた「経済活動と貧困」の他に、「多文化共生と減災」「人間生活と循環」の 2 分野を新設し、全校生徒で探究型学習を実施しています。				
・名古屋国際中学校・高等学校 http://www.nihs.ed.jp ・JICA グローバル教育コンクール 2014 http://www.jica.go.jp/hiroba/menu/global_edu/2014/ku57pq0000dy4p7-att/02_07.pdf				
ESD活動をさらに深めるために、今後どのような活動を展開していこうと考えていますか？				
ESD 活動を全校の取り組みとし、「経済活動と貧困」「多文化共生と減災」「社会生活と循環」の 3 つのテーマを設定しました。そして、これら全てに関わる取組が「SOCIAL ACTION!」です。「!」は、若者の柔軟な発想と、失敗を恐れない気持ちで行う社会的活動を意味しており、中高生が発案となる社会的活動の実施が今後の活動の中心となります。 3 つのテーマは、外国籍の生徒や教員が多い本校の特徴と、①南海トラフ巨大地震で甚大な被害が予測される②外国人居住者が多い、という愛知県の特性から設定したものであり、これらのテーマに基づき、地域企業、地方公共団体、NGO との外部連携を密にしながら、生徒が行う SOCIAL ACTION! を数多く実践すると同時に、有益な取組をオンラインや学校連携で国内外に発信していきたいと考えています。				

ふりがな 氏 名	ないとう たかし		都道府県	福岡県	
	内藤 崇				
所属/肩書	中外製薬株式会社 プライマリユニット九州北営業部				
私のESD活動	担当医療機関への疾患啓発活動の推進により、骨粗鬆症による骨折発生数の減少を目指している				
ESD活動を表すキーワード	気づき	啓発	健康		
活動の概要（特に、取り組みの独創性、革新性、成果について説明してください）					
<健康な地域社会の創生を目指した疾患啓発活動> 私は民間の製薬企業でMRとして働いております。MR(Medical Representative:医薬情報担当者)は医薬品情報の提供や収集を行う職種です。私の行ったESD活動は、疾患の啓発活動です。対象とした疾患は骨粗鬆症です。骨粗鬆症は主に高齢者の方で発症し、骨が脆くなり骨折が起こりやすくなる疾患です。骨折を起こすと、痛みを感じたり日常生活に不自由をきたすのは勿論のこと、寝たきりになったり、生存率が低下してしまいます。薬を飲むことで、骨が丈夫になり、ある程度骨折を予防することができますが、それだけでは十分ではありません。薬を飲んでいても、転倒すると骨折してしまうのです。転倒が原因で骨折をする人が後を絶たない、そういった問題が解決できていない。これが今の日本の現状です。骨折をして寝たきりになると、介護も必要になります。しかし今後高齢化が進むにあたり、2025年には介護人材が約30万人不足すると言われています。転倒を予防し、疾患知識を向上させることで骨折する人の数を減らすことは、高齢化が進む日本で健康な社会を築くために非常に重要な活動だと感じました。そこで私は担当する医療機関や薬局で転倒予防や疾患啓発の冊子やポスターの設置をお願いしました。結果として、骨粗鬆症の方が疾患に対してどのくらい興味をもったか、また骨折の発生数が減少したか等のデータはないのですが社内表彰や業界誌で取材してもらいました。この活動を全国に広げていくことで骨折を起こす患者さんが減り、医療費・介護費の抑制、高齢者が健康に過ごせる健やかな社会が実現できると考えています。					
ESD活動をさらに深めるために、今後どのような活動を展開していこうと考えていますか？					
多くの人と積極的に出会い、意見を聞き、いろいろな視点から物事を考えることでESDの可能性を探っていきたいです。多くの意見に触れるために、第1回参加者と第2回参加者をつなぐような場を作っていきたいと考えています。自身のESD活動の今後の展開としては、現在までは骨粗鬆症という疾患限定だったが、他の疾患においても応用していきたい。また、本コンファレンスではできる限り多くの参加者と話し合い、日本の現状をさまざまな側面から把握したいと考えております。そして社会が抱える問題に気づき、解決に向けて動いていきたい。本コンファレンスの参加者の皆さんは分野は違えど、より良い明日を目指すという目標は共通していると思います。志の高い参加者の方が本気で意見交換することで、きっとお互いの活動に良い影響を与えることができると思います。					

ふりがな 氏 名	なかお ゆり 中尾 有里	都道府県	大阪府	
所属/肩書	NPO 法人箕面こどもの森学園 常勤スタッフ			
私のESD活動	地球市民として生きるための学校創りと、学びの選択肢の提供。ESD に関わる若者のプラットフォーム創り			
ESD活動を 表すキーワード	市民	対話	子ども	
活動の概要（特に、取り組みの独創性、革新性、成果について説明してください）				
箕面こどもの森学園は、市民として生きることを大切にする小・中学校（ユネスコスクール）です。私は現在 4～6 年生クラスのファシリテーターをしています。子どもたちは自分で自分の時間割を決めて活動し、とことん話し合って問題を解決したりルールを決めたりします。大人も学習者であり、指導者ではなく促進者・援助者という立場です。自分の興味や感性から学びが始まり、自らを学ばせていくこと。学校という共同体をつくる確かな一員であること。子どもたちはその上で環境や人権、平和について学びます。 そのテーマは学期によって変わり、「宇宙」「しょうがいって何？」「くらしに役立つエネルギーと環境」など様々です。「平和と憲法」では集団的自衛権について中立的に知り、自分はどんな意見を持つかを話しあったり、なぜ戦争がおきるのかについて調べたことを発表したりし、自分にできることを探りました。「日本を紹介しよう」は、自らの生活に客観的な目を向け、当たり前ではないことを知り、真の国際人になっていくきっかけにするための学びでした。最後には海外から日本にいられて日の浅い方々の所へ子ども達が出向き、お茶を点てたり、造幣技術についてプレゼンしたり、クイズをしたり思い思いの形で発表しました。また、テーマは音楽や英語などとも連動し、保護者と一緒に勉強会を実施、生活まるごとのめり込むような学びをつくります。 子どもが自分の学びを自分で決められることを前提にしたあり方を発信し、日本の教育をすこしずつ変化させること。そして多様な人生や多様な学びを保障する活動に取り組んでいます。個人としては昨年の ESD ユネスコ世界会議ユース・コンファレンスに参加しました。				
・NPO 法人箕面こどもの森学園 http://kodomono-mori.com/ ・ESD Global Youth http://www.esdyouth.org/				
ESD活動をさらに深めるために、今後どのような活動を展開していこうと考えていますか？				
現在の活動を続けることはもちろん、更に、公立や私立で働く教員の方々と一緒に ESD を探求していきたいと考えています。2015 年 8 月には教育に携わる社会人や学生を対象に研修キャンプを主催します。それをきっかけに、現場でのチャレンジを知り、一緒にできる部分を探り、日々頑張っている教員の方々に応援したりお互いに相談できたりする仕組みをつくります。また、教育カフェ・マラソンという中学生以上対象の対話イベントを月に一度開催しています。2015 年 7 月現在で 33 回を迎え、延べ 1000 人弱の方が参加してくださり、教育や社会、未来について対話する文化をつくり、お互いに情報交換するコミュニティに育っています。100 回の開催を目指して続けていきます。また、ESD ユースの協働とプラットフォーム創りに尽力し、自ら海外への研修に出向き、ユースとしての実績に貢献したいと考えています。				

ふりがな 氏 名	なかしま えりか	都道府県	愛知県	
	中島 江梨香			
所属/肩書	中部大学分子性触媒研究センター研究員			
私のESD活動	研究者（環境工学）の立場から、国内外で活動する学者・専門家と共に研究会を発足し活動を行っている			
ESD活動を表すキーワード	環境	教育	幸福	

活動の概要（特に、取り組みの独創性、革新性、成果について説明してください）

私は環境工学が専門で、資源、材料、エネルギーを中心に工学から見た環境について研究を進めてきた。一例として、産学官の協力のもと、環境に優しい石油代替燃料の普及や海洋バイオマスを利用した CO₂ 回生システムと燃料開発などがある。現在は環境に優しいマイクロチューブリアクターを用いた有機合成プロセスの開発を行っている。これまでの研究活動の特徴は、海外経験、機械工学で博士号を取得した女性であるという特徴を生かし、産学官連携だけではなく、学問分野、国境を越えた境界領域での研究を行ってきたことである。

数年前から、省エネという言葉と同時に持続性という言葉をよく耳にするようになり、環境工学から見て持続性とはどのようなものか、それは学問として成り立つのかという疑問を出発点として、中部大学の教授を中心に、持続性について議論する研究会を発足した。研究会の中で、地球上に存在する還元炭素（化石エネルギー資源）の枯渇年数は600 万年に近く、人間活動が活発になっても枯渇の心配はないと考えられ、資源・エネルギーの分野では持続性を議論する必要はないという意見もあったが、持続的な発展には人々の幸福が必要不可欠であり、その幸福は、文化や人種により異なり、そこが結論付ける上で困難なポイントであった。昨年度この活動報告書として本『持続性再考論』を作成した。また、7 学部 30 学科を有する総合大学である中部大学では、専門性や学部の枠を超えたさまざまなESD活動を展開しており、「中部大学ESDシンポジウム」や、7 学部の学生たちが活動や研究を発表する「中部大学ESD研究・活動発表会」などが開催され、私はこれらの会に積極的に参加し議論を行った。

ESD活動をさらに深めるために、今後どのような活動を展開していこうと考えていますか？

私は現在、中部大学分子性触媒研究センターの山本尚教授のもとで、環境に優しいマイクロフローリアクターを用いた有機合成プロセスの開発を行っている。この研究の目的は、有機化学と工学の知見を融合し、危険性物質を簡単かつ安全に取扱い(人的損失の削減)、投入エネルギー・資源、廃棄物の削減と同時に科学技術の発展を目指す事である。ESDにおいては、価値観の転換が重要だが、私は、学者、研究者の活躍から解るように科学技術の進歩による課題解決の可能性を過小評価してはいけないと考える。中部大学では、文理融合によるESDの大学院の設立構想があり、今後益々活発な ESD 活動が期待される。私自身は、現在の研究活動に、ESD的視点(批判的・総合的思考)を加える事により、自身の研究活動だけでなく、これまでの国境、境界領域を超えた活動での経験を生かし、研究者、教育者としてESD活動を発展に寄与したいと考えている。

ふりがな 氏 名	ながしま りえ	都道府県	東京都	
	長嶋 里恵			
所属/肩書	上智大学総合人間科学部教育学科			
私のESD活動	障がいの有無や文化の違いを超えて、一人ひとりが個の輝きを実感できる場を子どもたちと共に創っています			
ESD活動を表すキーワード	多様な人と人との つながり	共生	個の輝き	
活動の概要（特に、取り組みの独創性、革新性、成果について説明してください）				
私が活動してきた ESD の活動は以下の 2 つ（うち一つが現在進行中）です。 ① 特定非営利法人 Learning for All ここでは、日本の子どもの貧困の課題に焦点をあて、すべての子どもたちが生まれた家庭にかかわらず、将来の可能性を最大化するというビジョンのもと、都内の教育委員会やソーシャルワーカーとの連携による学習支援を実施しています。子どもたちへの学習機会の提供だけでなく、大学生が課題の当事者となり、解決できる人材の育成に力をいれているということも、この活動の特徴の一つです。ただ単に子どもたちに勉強を教えるのではなく、大きな学習遅滞を抱える原因は何かという要因分析を深く行い、一人ひとりの子どもたちのビジョンを描き、そのビジョンを落とし込んだ指導を設計・実施していき、振り返りを行うというサイクルで子どもたちの可能性を最大化しています。 私は 2014 年 1 月から 3 か月間学生教師として、2014 年 3 月から 2015 年 3 月まで 1 年間学校連携拠点にて現場管理責任者として活動しました。 ② 発達障害のある子どもたちとともに ①の LFA で、通常学級にも発達障がいなどの特性によって学校の学習についていくことが難しく、自信を失っている子どもに出会いました。通常の学級にも、特別な支援を必要としている子どもたちが存在していることに気づき、もっとこのような特別なニーズを抱える子どもたちと学び、それに応えられるようになりたいと考えようになりました。現在は通常学級や特別支援学級などの在籍に関わらず、多様な特性を持つ子どもたちと共に活動することで、「すべての子どもたちが自信をもって生きていくことができる」環境づくりに取り組んでいます。				
ESD活動をさらに深めるために、今後どのような活動を展開していこうと考えていますか？				
私は、多くの子どもが学校と家庭のみを行き来する生活を送っており、子どもたちが学校と家庭での評価を絶対視することで、必ずしも全員が自分自身の良さに気付いているわけではないということに課題意識を感じています。学習が何らかの要因で苦手な子どもは、輝く場所を見つけてもらうことができずに、次第に自信を失っていきます。これが、いじめや不登校にもつながりかねません。子どもたちは「一人ひとり輝く部分が違うけれど、必ず輝く部分を持っている」ということを今まで出会った子どもたちが教えてくれました。だからこそ、今後は学校の外でも子どもたちが学べる・新しい経験をすることができる場を創る活動をしたいと考えています。人は、多様な人と出会うことによって視野を広げ、成長することができると思っています。年齢も出身も、もちろん経験も異なる大人や子どもが出会い、つながり、そして共に学ぶことのできる機会を展開していきたいです。				

ふりがな 氏 名	なかの なおみ	都道府県	鹿児島県	
	中野 直実			
所属/肩書	鹿児島大学教育学部学校教育教員養成課程家政専修			
私のESD活動	高齢者のための消費生活講座を考案し、公正で持続可能な社会の構築に貢献することを目的としています			
ESD活動を 表すキーワード	経済の好循環	消費者市民社会	高齢者教育	
活動の概要（特に、取り組みの独創性、革新性、成果について説明してください）				
私の ESD 活動は、高齢者のための消費生活講座を実践することにより、公正で持続可能な社会の構築に貢献することです。高齢者の消費者トラブルが近年増加傾向にあるという現状から、高齢者に対する消費者教育の重要性に着目し、卒業論文を通して活動を進めています。 これまでに私は、消費生活センターが行っている出張講座を見学させてもらい、講座の現状と課題を把握し、私が実践する講座の内容を考えました。その内容は、思考力・判断力・実践力を養うことができるよう、「伝え合うこと」、「考えさせること」を重視した内容になっています。また、参加者が受動的にならないための教具として「参加型紙芝居」を自作しました。参加型紙芝居とは、ただ物語を聞くだけの一般的な紙芝居ではなく、電話勧誘販売などへの対応力をつけられるように、場面を描いた紙を見せながら、読み手が悪質業者の役を行い、参加者に悪質業者との電話対応を疑似的に体験してもらうというものです。一度でも体験しておくことで、本当に悪質業者から電話が来た時にしっかり断ることができると思います。 この活動で得られる成果は、2 つのことが考えられます。1 つ目は経済の好循環を実現できることです。被害の多い高齢者の消費者トラブルの減少は、悪質業者にお金が行くのを防ぎ、良い企業にお金が行くことに繋がります。2 つ目は持続可能な社会の実現につながるということです。この講座を通してまわりの人や将来を考えて消費行動をする力を身に付けていくことで、公正で持続可能な社会を作り上げていけると考えます。今から 10 月までには講座を実施し、先に述べたような成果を得ている予定です。				
ESD活動をさらに深めるために、今後どのような活動を展開していこうと考えていますか？				
ESD 活動をさらに深めるために、今後は、主に3つの視点から活動を展開していこうと考えています。1つ目は、高齢者のための消費生活講座の実践を10月までにすることです。実践する場は、社会協議福祉会の方と連携し、地区公民館で行うことが決まっています。2 つ目は、講座を受講した高齢者がリーダーとなって、知識を得ることに消極的な高齢者の啓発を行うことを見越した学習支援や、消費者教育を地域全体で考えるワークショップなどを行い、消費者問題解決力の高い地域づくりを目指すことです。この講座を行うことで、高齢者に自分たちの消費行動が、社会や将来の人々に大きく影響していることを強く自覚させ、持続可能な社会を実現させたいという思いがあります。3 つ目に、大学生にも消費者市民を作ろうとする態度を持たせることです。大学の先生と協力し、講義の一環として私の講座を参考に、高齢者のための消費生活講座を考えてもらう予定です。				

ふりがな 氏 名	ながれお まさあき 流尾 正亮	都道府県	岡山県	
所属/肩書	岡山市役所市民協働局 ESD 推進課 主任			
私のESD活動	RCE 岡山の事務局として、学校や公民館を中心とした地域での ESD 推進に取り組んでいます			
ESD活動を表すキーワード	市民協働	地域コミュニティ	持続可能な生産と消費	
活動の概要（特に、取り組みの独創性、革新性、成果について説明してください）				
国連大学が提唱する RCE (ESD 地域拠点) のひとつである RCE 岡山の事務局担当として、ESD の認知度向上と理解促進を進めてきました。RCE 岡山は岡山市役所（行政）が事務局として、市民団体、企業、大学、学校等のマルチステークホルダーをつなぐ役割を担っている点で、世界の RCE の中で数少ない地域のひとつです。 市民に対してわかりやすく説明することとあわせて、様々なステークホルダーの岡山の ESD の取組への参画を進め、ステークホルダー間の連携・ネットワークづくりのコーディネートに取り組んできました。 <取組内容> ①市民協働を ESD 推進の柱のひとつとして行政ならではの ESD 推進の実施 ・公共性の高い行政という立場から、様々なステークホルダーの協力を中立な立場から要請し、持続可能な社会づくりに向け、行政の資源等を活用しつつ、地域での具体的な取組を進めてきました。 ・岡山市に 37 館ある公民館、図書館、学校など、地域にある教育機関を活用し、ESD を難しい概念だけで説明するのではなく、「(E) えーものを (S) 子孫の (D) 代まで」といった、地域に根差した具体的な ESD の普及促進に努めています。 ②世界中の RCE と岡山地域の活動のコーディネート ・世界中の様々な地域で取組まれる ESD は、大陸・国によってテーマも取組内容も様々です。それらの取組の特徴をとらえつつ、岡山地域の市民の方々が ESD をより理解できるよう、共通したテーマで取り組む団体同士のやり取りの仲立ちを行い、スカイプなどでの交流を進める支援を行うなど、世界と地域のハブとなって活動しています。				
・おかやま ESD なび http://www.okayama-tbox.jp/esd/ ・岡山 ESD プロジェクトHP http://www.city.okayama.jp/esd/top.html				
ESD活動をさらに深めるために、今後どのような活動を展開していこうと考えていますか？				
ESD、SD いずれも、世界・日本が進んでいく方向性としてはあるべき方向性だと考えており、これまでの開発・発展の在り方を見直す視点として重要だと考えています。 しかしながら、ESD、SD をそのまま市民の方々にお伝えすると、「難しい」「具体性がない」「何をしたらいいのかわからない」といった感想を持たれてしまい、「なんだかよく分からないし難しそう」と敬遠されてしまうということを、これまでの ESD の普及推進の中で痛感しています。 今後は、概念的なことだけではなく「今日から私は何をすればいいのか」をお伝えし、一人でも多くの人が具体的な行動をとることや、ESD や SD に取り組んだという実感を持つことが重要だと考えています。 具体的には、フェアトレードの推進のように、毎日の買い物からできる具体的な行動の提示や、企業が取り組むことのできる経営における ESD の推進などについて取り組んでいこうと考えています。				

ふりがな 氏 名	のなか ひかり 野中 光	都道府県	沖縄県	
所属/肩書	一般社団法人 Enactus JAPAN プログラムマネージャー			
私のESD活動	世界 36 ヶ国と連携し実施。次世代を担うグローバルリーダー育成教育プロジェクト「Enactus」			
ESD活動を表すキーワード	持続可能な地域づくり	若者の企業家精神の醸成	異世代交流型学習	
活動の概要（特に、取り組みの独創性、革新性、成果について説明してください）				
■グローバル起業家育成事業 Enactus → 学生、大学機関、ビジネスリーダーが協力し合い、起業家的アクションで生活を変化させ、より良い持続可能な成果を創るために行動する起業家育成プラットフォーム「Enactus」の日本の事務局として、全国の大学生の地域密着・社会課題解決型プロジェクトの立ち上げ及び運営支援を通じて学生自身の能力向上を図ることをサポートしております。 Enactus はアメリカに本部を置き、世界 36 か国、1,700 の大学、70,000 人以上の学生が参画しており、世界各地で学生が捉えた社会課題を、ビジネス手法で解決方法を計画・実施し、その成果を発表する国内大会及びワールドカップ（世界大会）を開催しております。 国内大会及びワールドカップでは、全国・全世界の学生による地域密着型のプロジェクトを共有することで、学生に新たな視点と、次世代を担う学生同士のネットワークの場を提供すると同時に、ビジネスリーダーからアドバイスを受ける機会となります。それらを通じて、世界的な視点で地域の未来を自らの意思で切り開けるグローバルリーダーを育成することを目指しています。プロジェクトを実施して 3 年が経過する中で、毎年 10 以上の新たなプロジェクトが生まれ、またこれまでに 2 団体が実際に創業をして継続的にプロジェクトを実施しております。 ■その他の活動 → 学生の地域密着型のプロジェクトを支援すると同時に、以下の取り組みも実施しています。 - 志のある経営者と学生が二人三脚で地域づくり・企業の経営革新を行う長期実践型インターンシップ - 沖縄県の離島（粟国島）の小中学校と連携し、小中学生を対象に、地域愛を育むと同時に自身のキャリアを考えるプロジェクト（総合学習の一環）				
・Enactus JAPAN Facebook ページ https://www.facebook.com/EnactusJapan?fref=ts ・Enactus Worldcup 2015 ハイライト動画 https://www.youtube.com/watch?v=x6V8xZEqlQQ				
ESD活動をさらに深めるために、今後どのような活動を展開していこうと考えていますか？				
・Enactus の活動では、プログラムへの参加学生をさらに増やしていこうと計画しております（現在 16 大学→H27 年度 20 大学）。また、東アジア・東南アジアの各国の Enactus と連携し、アジア学生コンファレンスを実施し、国を超えた学生のプロジェクト連携をつくっていきたいと考えております。 ・また、今年度より沖縄県庁（雇用政策課）と県内の小中高校生の地域への誇り・愛着と、就業意識を高めるための活動を実施しております。沖縄県では各市町村の教育委員会が中心となったキャリア教育事業を実施しており、私は県公認のコーディネーターの立場として、教育委員会のキャリア教育プロジェクトを支援することになっています。その中で ESD の概念を取り入れたキャリア教育を市町村とともにつくっていきたいと思っております。				

ふりがな 氏 名	のむら かよ 野村 佳世	都道府県	岐阜県	
所属/肩書	・大垣市立上石津中学校 教諭 ・Go4BioDiv メッセンジャー			
私のESD活動	学習課程を通じて仲間と関わり、自主・協力的に参加することで仲間の意見に傾聴できる姿を大切にするもの			
ESD活動を表すキーワード	あなたを想う	自分を振り返る	みんなのために行動する	
活動の概要（特に、取り組みの独創性、革新性、成果について説明してください）				
「世界遺産と環境問題」を考える参加型学習を行いました。中学校公民科では環境問題、世界遺産について学びます。 第1時間目は、「関連し合う地球環境問題」と題して、環境問題の連鎖を学びました。オゾン層の破壊や酸性雨、砂漠化などの環境問題とその原因となる用語を並び替え、連鎖反応が起こることを理解しました。自然資源に頼る発展途上国では、焼畑や森林伐採は生きていくための手段であることも学ぶことができました。 第2時間目は、日本の自然が危機にさらされていることを世界遺産を守る方から頂いた手紙から知りました。手紙の感想を交流し、世界にも誇れる日本の自然を守りたいと思う生徒が多く出てきました。 第3時間目は、世界中の自然遺産とその自然遺産が抱える環境問題は何かを調べ、調べたことをカタチにするために、カードを作りました。世界遺産とそこで抱える環境問題をマッチングするカードを作り、ゲームを行いながら、世界遺産と環境問題について知ることができました。 第4時間目は1つの環境問題を選び、「この環境問題が続くとどうなるのか？」をブレインストーミングし、他の班がどのようなことを書いたのかをギャラリー方式で見て回りました。最終的には、人間の生活にも悪影響が出るという結論になる班が多くありました。 最後には、「今日からできる私の一歩」を考えました。環境問題とどのように向き合うのか、環境マークのついた製品を購入することを心がけるなど、自分の生活を見直すことができました。世界が抱える環境問題や自然災害の学習を通して、仲間と「持続可能な社会」の姿を描き、問題や考えを共有し合うことで、共に生きる力を養うことができました。 ・Go4BioDiv http://go4biodiv.org/				
ESD活動をさらに深めるために、今後どのような活動を展開していこうと考えていますか？				
私の目指すESDは、「国際理解教育を取り入れた人権教育」を行うことです。そのために、今後は、積極的に国内、国外に出向き、その場所でどんなことを学びたいのか、何を見て、何を学校に持ち帰り、生徒に伝えるのか、授業を行うのかを考え、自らの教材を作り上げたいと思っています。 また、私が体験したことや教材は、誰かに伝えていくべきだと思っています。それが学校だけでなく、フィールドを広げ、地域コミュニティセンター等でESDを実践していきたいと思っています。自分に時間があるときには、地域の人々を集めて、参加型で考える講座などを行い、多くの人々にESD、つまり、自分の生活や考えを見直すこと、そしてあなたという相手を大切にする、それは全て世界のみんなのために繋がっていくことを伝えていきたいと思っています。さらに、今後はとくに「防災教育」に力を入れ、教師海外研修で得たヒントをコンファレンスでも発信していきたいです。				

ふりがな 氏 名	ひらはら ななこ 平原 菜南子	都道府県	福岡県	
所属/肩書	・西南女学院大学人文学部英語学科 ・カンボジア教育支援プロジェクト「ANAKOT」			
私のESD活動	私は北九州市のまなびとESDステーションでカンボジア教育支援プロジェクトのリーダーをしていました			
ESD活動を表すキーワード	カンボジア教育支援	カタリバ	学習支援（教育）	
活動の概要（特に、取り組みの独創性、革新性、成果について説明してください）				
私は福岡県北九州市にある「まなびとESDステーション」の“まなびと”として、さまざまな活動に取り組んできた。「まなびとESDステーション」とは、北九州の全10大学と地域社会が連携し、実践活動を通じて将来を担う人材育成に取り組むプロジェクトだ。まちなかでユニークな講座を開催したり、大学生がまちのみなさんとともに地域の課題を解決したり、その活動はまちづくり、未来づくりへとひろがっていく。「まなびとESDステーション」には学生が立ち上げた様々なプロジェクトがある。私は、その中のひとつ、「カンボジア教育支援プロジェクト」のリーダーをしていた。このプロジェクトは、私たちの代から始めたプロジェクトで、カンボジアに教科書や絵本などの教育支援となる物資を送るプロジェクトである。主に募金活動や、大学の生協でカンボジア産の胡椒を使ったクッキー販売、大学祭や地域の祭りなどで出店等を行っている。努力の甲斐あって、2014年度では104,697円もの支援金を集め、カンボジアの小学校へ教科書を送ることができた。また、2015年3月には実際にカンボジアへ1週間滞在し、現地の村の生活を体験したり、教科書を支援している学校へ訪問をしたりした。 また、この活動以外にも、北九州地域の学校で授業のアシスタントを行ったり、ひまわり学習という放課後の授業外プログラムのスタッフとして参加したりしている。また、現在全国各地に展開している、高校生心に火を灯す授業「カタリバ」にも、キャストとして積極的に取り組んでいる。私の将来の夢は“中学校の英語教師”であるため、まなびとESDステーションで行ったこのような活動は大学生活の中でも最も貴重な経験である。				
・「ANAKOT」カンボジア教育支援プロジェクト http://manabito.kitakyu-u.ac.jp/report/project_11				
ESD活動をさらに深めるために、今後どのような活動を展開していこうと考えていますか？				
自分は、まだ学習指導要領におけるESDの在り方などを十分理解できていないと考える。今後はさらにESDの意義を考え、その知識を身に着けたい。しかし、身に着けるだけでは実行できたとは言えないので、実際に自分が教壇に立つことができたときに、知識や経験を多いに活用し、生徒の可能性を最大限に引き出すことを目標としている。その時に活用したいものは、大学時代に培ったまなびとESDステーションでの経験である。カンボジア教育支援プロジェクトで行ってきた活動を再確認し、また今後の活動についても考えていきたい。今までは「支援」を重視した活動がメインであったが、それではこちらの一方的な自己満足であり、持続可能な発展とはかけ離れている。したがって今後は実際に現地へ赴き環境を整える「教育」をメインに行って行きたいと考える。「教育」といっても、ただ一方的に与えるのではなく、「現地の人々と共に」というのが私の理想だ。				

ふりがな 氏 名	ふくしま ひろき 福島 宏希	都道府県	東京都	
所属/肩書	・United Youth 代表 ・NPO 法人ボランティア活動推進国際協議会日本 副理事長			
私のESD活動	様々な社会問題に取り組む若者が、政治の場など社会へ意見発信する場を作っています			
ESD活動を表すキーワード	政治教育	政策提言	持続可能性 (トリプルボトムラインの統合)	

活動の概要（特に、取り組みの独創性、革新性、成果について説明してください）

■若者の政策提言のための分野横断プラットフォーム

様々な社会問題に取り組む若者が、それぞれの活動の分野を越えて集い、意見交換を行ったり、政策提言を行ったりする場を作ってきました。

(1) 洞爺湖 G8 サミットに向けた分野横断プラットフォーム(2007-2008 年)

2008 年の洞爺湖 G8 サミットに向け、環境、国際協力、教育、医療・保健、貧困、など様々な分野に取り組んでいる日本及び世界の若者が集い、G8 に対する政策提言を検討する 3 回のイベントと一つのキャンペーンを主宰。環境副大臣を含む日本政府高官へ提言した。一連のプログラムへの参加人数(運営 50 名、総参加者 500 名以上)、および多様性(分野、国籍等)は、若者主体で行ったプログラムとしては最大級。G8 に対して提言する若者グループとしては当時唯一で、政府へ若者の存在感をアピールすると共に、分野を超えた人のつながりを生み、そのつながりは 7 年経った今でも生きていて様々な活動につながっている。

(2) 若者の意見を政治へ直接伝えるための「日本若者協議会 準備会」発足(2014 年-)

若者の意見を直接政治へ届けるため、複数の NPO・学生団体と共に「日本若者協議会 準備会」を昨年発足。スウェーデン等欧州諸国やフィリピンなどで取り入れられている「若者協議会」「若者議会」を参考に、若者と超党派の政治家が直接政策協議をしている。本年 3 月 2 日のイベントを皮切りに、既に 7 月までで 4 回、若者の政治参加を進めるための議論を政治家と行っている。日本ではこのような政治へ直接一般の若者が声を発信する場は定着していない。少子高齢化で「シルバーデモクラシー」が問題とされる中、直接若者が意見を政治に伝える場は極めて重要である。

・United Youth HP <http://www.unitedyouthjapan.net/>
 ・日本若者協議会準備会 HP <http://youthconference.jp/>

ESD活動をさらに深めるために、今後どのような活動を展開していこうと考えていますか？

私が現在最も力を入れている活動である、議員と若者の直接的な対話は、とても教育的効果の高いものだと実感しています。対話を実りあるものにするために、若者側も必死で勉強しますし、議員側も新たな気づきがたくさんあるようです。したがって、今後、これまでの活動をさらに拡充し、頻度を増すと同時に、各地域で開催していきたいと考えています(現在は国会周辺でのみ開催)。

また、選挙権年齢が来年より 18 歳に引き下げられることが決まり、より若い世代が政治に関心を持ち、能動的に行動を起こしていく必要性が高まっています。この機会に、政治教育にも力を入れ、若い世代の政治リテラシー向上の活動を展開していきたいと考えています。

ふりがな 氏 名	ふくだ あつみ	都道府県	群馬県	
	福田 あつ美			
所属/肩書	群馬県立女子大学国際コミュニケーション学部			
私のESD活動	所属する NPO 団体にて、紛争地域の青少年を対象に里山を舞台にした対話交流プログラムを行っています			
ESD活動を表すキーワード	つながり	持続可能性	草の根	
活動の概要（特に、取り組みの独創性、革新性、成果について説明してください）				
大学1年時から認定 NPO 法人 Peace Field Japan の学生ボランティアスタッフとして活動を続けています。当団体は、持続可能な平和の担い手を育成するため、イスラエル、日本、パレスチナの少女たちを日本の里山（山梨県小菅村）に招き、自然の中での体験活動や環境教育を通じた、2 週間の対話交流プログラム（”絆“KIZUNA プロジェクト）を企画、運営しています。”SATOYAMA for Peace“をコンセプトとし、日本の里山から発信する実践的な平和構築のモデルとして、持続可能な平和の実現を目指しています。 私は、学生ボランティアとして、自然の中での様々な活動の企画や実施、生活面でのサポートを主に行っています。この活動を続ける中で、対立するイスラエルとパレスチナに住む少女たちの葛藤や紛争解決の難しさを痛感したと同時に、そういった環境の下でも逞しく生きる現地の人々の姿に胸を打たれました。また、環境面に目を向ければ、規模や状況の違いはあっても、世界中の人々が地球環境を共有し、多くの課題を共に抱えていると実感する場面が多くありました。このプログラムに昨年参加したパレスチナからの参加者は、彼女が住んでいる村も、”里山“であるということに気が付き、将来は同様のプログラムをパレスチナでも実施していきたいと意欲を見せています。また、日本からの高校生の参加者は、イスラエルとパレスチナ間の問題は国際問題のひとつではなく、自分の友達を隔てている大きな問題であると捉え、将来は国際機関で問題解決のために働きたいと目標を述べていました。こういった経験から、教育や体験といった機会がゴールではなく、そこがスタートであると感じ、行動を起こすことの大切さを実感しました。				
・認定 NPO 法人 Peace Field Japan http://www.peace-field.org/index.html				
ESD活動をさらに深めるために、今後どのような活動を展開していこうと考えていますか？				
まず、4 月から入社する企業では、理念として持続可能な社会の実現を目指しているので、まずはその理念を支えるビジネスについて学ぶことから始めます。特に地方と都市とを結びつけることを意識し、両者に関する知識を深めていきたいです。同時に、さまざまな社会問題にアプローチするためのイベントや活動を実現できる場があるので、そのような場を活用していきたいです。そういった企業としてのアプローチを通じて、地球環境や社会問題に関する消費者の意識を喚起したいと考えます。また、継続して NPO 団体での活動に関わっていこうと考えています。イスラエル、パレスチナ間の問題や“里山”から学ぶ環境問題はすぐに解決できるものではありません。今まで積み上げてきた経験や想いを、今後の学生スタッフや参加者たちといった次の世代にも伝えることによりサポートしていこうと思っています。				

ふりがな 氏 名	ほし くみこ	都道府県	神奈川県	
	星 久美子			
所属/肩書	・ 特定非営利活動法人開発教育協会／DEAR 事務局スタッフ ・ ASPUnivNet 東海大学教養学部 事務局			
私のESD活動	「自分事」として世界を考えれるような活動			
ESD活動を 表すキーワード	広がり	学び合い		価値観・意識

活動の概要（特に、取り組みの独創性、革新性、成果について説明してください）

・異文化交流学生団体の立ち上げ(2010 年)

大学3年次にブラジルの漁村で半年間のボランティア活動を行いました。帰国後、日本に住むブラジル人などの子どもたちとの交流を目的とする、Beijo Me Liga(ベイジョ メ リーガ)という学生団体を設立し、マルチカルチャーキャンプを企画しました。外国にルーツをもつ子どもたち約 150 名を招いて、さまざまなアクティビティを通して交流しました。多文化共生とは何かを考える機会となりました。現在もキャンプは毎年開催されています。

・ベリーズでの環境教育(2011～2013 年)

青年海外協力隊として中米ベリーズで環境教育を広める活動を2年間行いました。廃棄物(主に生活ゴミ)の問題を目の当たりにし、ゴミに対する人々の無関心にアプローチすることを目標に、小中学校での環境教育授業、教員向けセミナー、政府の環境系機関との全国出前ワークショップ、ゴミ工作集の作成、住民参加ゴミライブアートなど、人々とのつながりと広がりを意識して活動を行いました。また、ゴミに対する自分自身の価値観についても気づくことができました。

・開発教育協会/DEAR での活動(2014 年～現在)

インターンを経て事務局スタッフとなり、主に開発教育ファシリテーターとして従事しています。中高生向けワークショップの際は、話し合いを通して相手の意見からの気づきや、自分自身の当たり前に触れるような発問を取り入れるようにしています。また、さまざまなグローバルイシューズに対しての「無力感」を打破するために、実際に行われているアクションを例として出し、「社会は変えることができる」というメッセージを送るように心掛けています。

・BeijoMeLiga マルチカルチャーキャンプ http://www.u-tokai.ac.jp/effort/activity/challenge/news/detail/20140826_2.html

・外務省 NGO インターン・プログラム http://www.joca.or.jp/activities/ngo-intern/h26/h26_katsudo/dear.html

ESD活動をさらに深めるために、今後どのような活動を展開していこうと考えていますか？

マルチカルチャーキャンプは、外国にルーツをもつ子どもたちとの交流が目的ですが、今後は、さらに多様な参加者が集まれるように、外国学校やインターナショナルスクールの子どもたち、そして先生たちも交えたキャンプを企画したいと思っています。また、各回のテーマである「平和」や「つながり」について、その言葉の捉え方について話し合うアクティビティを入れていきたいです。課題は、ユースの参画をどう呼びかければよいかという点です。学生時代から共に活動してきた仲間の中にも 20 代半ばから後半になると、さまざまな事情で、これまでの活動に関わらなくなる人がいます。関心が薄れてしまったのかもしれませんが、参加しやすい企画や集客の方法などの知恵を参加者からもらいたいと思っています。今後の活動を展開する上で、どのように巻き込んでいくかが重要なポイントになると思います。

ふりがな 氏 名	まつおか りゅうた	都道府県	京都府	
	松岡 竜太			
所属/肩書	京都市立紫野高校 教諭・企画推進部			
私のESD活動	未来の国際人を育むため豊かな自然と歴史的な文化財に囲まれた環境で国際理解・国際交流学習を推進する			
ESD活動を表すキーワード	高校教育	言語	グローバル	

活動の概要（特に、取り組みの独創性、革新性、成果について説明してください）

紫野高校は「21世紀を自分で歩く未来の国際人の育成」を教育理念に学習活動を行っており、持続可能な社会の担い手となる人材育成を目指している。本校では総合的な学習の時間で「持続可能な開発（以下 SD）」をテーマに学習をすすめている。私の所属する企画推進部ではその SD をテーマにした教材開発を行っている。1年生入学後まずは SD 概念の理解を目指し、前半は身近な SD、そして後半は世界とのつながりを意識した SD について学習し少しずつ生徒の中の世界が広がることを意識した教材とした。ただ、1年生に「持続可能な社会を目指して何ができるか？」を問いかけても持っている知識の総量が多くないため、入学直後は自分たちの生活と社会とがなかなか結びつかない現状がある。そこで1年生の前半では、まず教員側で SD の例を提示し説明、その後、1週間の新聞記事から SD にかかわる内容を取り上げ、その記事のどの部分が SD にあたるかを示し、生徒自ら SD にかかわる記事を調べ、それをまとめたものをお互いに発表させている。この活動を通して、社会でおこっている問題について自分ならばどうするかを考え行動できるようになることを目標としている。紫野高校では1年生の3月に8クラス全員が海外研修を行う。この海外研修においてもただ単なる異文化交流ではなく、SD の視点をもって研修に臨むよう指導する。そこで1年生後半には海外研修で訪問するマレーシアを題材に、「日本とマレーシア、東南アジア、そして世界」などのつながりに着目し生徒自身がテーマを設定し事前学習・現地学習・事後学習を通して、世界で活躍する持続可能な社会の担い手の育成を目指している。

・京都市立紫野高校 <http://www.edu.city.kyoto.jp/hp/murasaki/>

ESD活動をさらに深めるために、今後どのような活動を展開していこうと考えていますか？

ESDの活動が自ら問題提起を行い、行動する活動であることから、まず教師としては「アクティブ・ラーニング」を実践していくよう努力していく。英語の授業でも重要視しているが、これは一方向的な講義形式の教育とは異なり、教室内でのグループ・ディスカッション、ディベート、グループ・ワーク等を中心に行う手法であり、生徒がより主体的に学習できるよう教師側はフォローアップしていきたい。その上で中立かつ正しい情報を供給できるように多角的な視点から社会問題を深めていく。また最終的には彼らが自ら意見を発信できるように準備段階での疑問を明確にできるよう具体的な問いかけを心がけ、なぜそう感じたのか、そして問題解決に何ができるかを考え行動できるよう指導していく。

ふりがな 氏 名	まつくら さやか 松倉 紗野香	都道府県	埼玉県	
所属/肩書	上尾市立東中学校 教諭			
私のESD活動	世界と自分、社会と自分の「つながり」をつくる活動。 みんなで一緒に考え行動する力を育むことが私の ESD			
ESD活動を 表すキーワード	開発教育	グローバルシティズンシップ	ファシリテーション	
活動の概要（特に、取り組みの独創性、革新性、成果について説明してください）				
・JICA 教師海外研修派遣・・・2010 年度に教師海外研修教員として国際理解教育・開発教育研修に参加。ラオスを訪れ、現地の開発の現場から教材をつくり「食」にまつわる授業を実施。食糧問題やフードマイレージについて参加型学習の授業をつくり食育の観点から栄養教諭とのチームティーチングの形式での授業も取り入れ、「食」を通して世界とのつながりについて考えた。 ・韓国教職員招聘プログラム参加・・・2014 年夏に韓国を訪れ、現地のユネスコスクール訪問、授業実践、教員交流を通して日韓の ESD 実践について学ぶ機会を得た。 ・グローバルシティズンシップ科の設立・・・本年度より文部科学省指定研究開発学校として新教科「グローバルシティズンシップ科」を設立。私は本研究のプログラムコーディネーターとして、指導法研究、教材開発、評価研究に携わっている。本科では、持続可能な社会の担い手づくりを目的としており、ESD の概念を取り入れた学習内容を実践している。6月に行われた日本国際理解教育学会にて「中学校におけるグローバルシティズンシップの可能性」として分科会で発表を行った。 ・埼玉県長期研修教員・・・2014 年度埼玉県長期研修教員として上智大学にて ESD を主に国際理解教育・開発教育の視点から研究し、教材を作成。授業ではアフリカを題材として教材をつくり、多面的・総合的に考える力を養うこと、つながりを尊重する態度を育むこと目的とした。また昨年度の岡山、名古屋での会議にも参加し、ESD の 10 年を振り返り、今後の取り組みについて考える機会を得た。				
・JICA 教師海外研修 http://www.jica.go.jp/hiroba/information/2010/101201_02.html ・日本国際理解教育学会プログラム http://kokusairikai.com/cont/wp-content/uploads/2015/04/25 会大会プログラム.pdf				
ESD活動をさらに深めるために、今後どのような活動を展開していこうと考えていますか？				
・グローバルシティズンシップ科のカリキュラム開発 現在、本校が取り組んでいるグローバルシティズンシップ科におけるカリキュラム開発実施。 中学校におけるグローバルシティズンシップに関するカリキュラムは日本での事例が非常に少なく、情報を共有したり、実践について議論する場が限られている。今後は、持続可能な社会の担い手を育むためにも、ESD 概念を軸としてグローバルシティズンシップカリキュラムについてより深めたい。 ・評価研究 価値の変容、行動の変容が求められるため数値での評価はそぐわないと考えられるESDの授業であるが、評価規準の明確化や育みたい資質・能力を明確にする必要を感じている。評価について研究を重ね、適切な評価ができるよう議論を重ねたい。				

ふりがな 氏 名	よぎ りょうた 與儀 滝太	都道府県	沖縄県	
所属/肩書	沖縄県立名護青少年の家 ボランティア・国際交流事業 担当			
私のESD活動	ボランティア養成講座を継続して実施し、地域の団体と連携した教育活動を計画、実施しています			
ESD活動を 表すキーワード	社会教育	ボランティア	人材養成	

活動の概要（特に、取り組みの独創性、革新性、成果について説明してください）

私は、大学生時代に、地域と大学生を繋ぐ中間支援活動を行う学生団体を立ち上げ、ワークキャンプ等の企画・運営をしてきました。その活動を通して、地域から多くのことを学び、社会教育の可能性に魅力を感じ、社会教育施設にて働くことを決めました。

青少年の家においては、ボランティア事業を担当し三つの柱をたてて活動をしています。一つ目は、「地域ネットワーク」の構築です。沖縄県内の大学をはじめとする教育機関や NPO 団体等の地域活動に関わる方々と意見交換を行い、ネットワークの構築を進めてきました。結果として、台湾やハワイなどからの留学生による母国紹介や地域の保育園児によるエイサー等のプログラムで構成する国際的かつ地域密着の祭りを開催しました。二つ目に、ボランティアの知識・技術の向上を目的とした「ボランティア養成講座」を継続的に実施しています。講座を通して、コミュニティや世代を越えての交流が図られ、多様な価値観に触れる機会となっています。最後に、活躍の「場」の創出に取り組んでいます。親子キャンプ等の事業補助やボランティア養成講座で学んだ事を活用する機会として、今年度から「ボランティア協力事業」を企画・実施しています。この取り組みは、事業補助や施設修繕等のボランティア活動から一歩進み、ボランティアが自ら積極的に事業の企画・運営をするというものです。ボランティアからは、地域の子供達を招いた「七夕まつり」やボランティア養成講座のプログラム作り等様々なアイデアが提案され、実際に企画が実施され始めています。このように、継続してボランティアに参加した学生が積極的に参画し始めていることは、大きな成果だと言えます。

- ・沖縄県立名護青少年の家 <http://www.opnyc.jp/>
- ・一般財団法人沖縄美ら島財団 <http://churashima.okinawa/about2/11>

ESD活動をさらに深めるために、今後どのような活動を展開していこうと考えていますか？

今後の ESD 活動の展開として2点考えがあります。1点目は、これまでの ESD 活動の取り組みを広く発信し、より多くの地域住民が参画するネットワークづくりを行い、ESD 活動の深化を図っていきます。具体的には、「ヒト」を中心とする地域資源を活かした（琉球ガラスなどの伝統工芸や博物館との連携等）ボランティアプログラム開発を地域協同で取り組んでいきます。さらに、私が所属している財団では、沖縄美ら海水族館や海洋博公園、首里城等を管理運営しています。それに伴って、動植物や歴史の研究員も多く在籍しています。そういった資源も活用し、より充実した ESD 活動を行っていきます。2点目に、これまでの活動がボランティア活動者をどれだけエンパワメントできたかを調査及び検証するための測定、分析方法を考えていきます。

ふりがな 氏 名	よこじ ふみとし	都道府県	愛知県	
	横字 史年			
所属/肩書	東京大学教養学部初年次長期自主活動プログラム採用生			
私のESD活動	常に次世代とかかわる活動で、未来を切り開く強さと好奇心を持つ人材育成する			
ESD活動を表すキーワード	学ぶ	驚く	伝える	
活動の概要（特に、取り組みの独創性、革新性、成果について説明してください）				
愛知県新城市という過疎化の進む地元になんとか若者の活力で元気を取り戻せないかということから始まった「新城ユースの会」にかかわってきた私たちは、ようやく新城市議会の可決により青年からなる「若者議会条例」の施行をもって、本格的にこどもへの教育と若者に住みやすい街づくりとを実践することができるようになりました。そこに至るまでには困難も多かったのですが、特に2014年、新城市の姉妹都市10数か国の首長級が集まりチェコ共和国・ノヴェフラディ市で開催された「世界ニューカッスルアライアンス会議」へ青年部として同行し、海外の同年代の青年議会の目覚ましい活躍を目のあたりにして、条例可決への勢いが増した結果すばらしい成果として妥結したのは非常に大きなことだと思っています。 現在は拠点を東京にも広げ、「NPO 法人 宮城復興支援センター」の主催することもイングリッシュキャンプにおいて、ボランティアとして野外キャンプ活動を通じて被災して傷ついた子供たちの心のケアを行っています。被災地での学習支援活動のアイデアをもとにした、自身の幼少から小中高時代のつらい体験をいかして、東京大学学生有志による、経済的に恵まれない家庭を中心とした学習支援および低価格での家庭教師活動、独自の思春期における教育や子育ての相談サポートなどもそろそろ実現しそうです。 また、東京大学独自の「初年次長期自主活動プログラム」採用者五名のうちの一人として、一年間の特別休学期間を利用し、戦後70年の節目に戦争体験を風化させない活動を行っています。今年末にはムービーやSNSを駆使して私の取材の集大成を発信し、母校や地元を中心に多数の講演会を行って子供たちに「過去と今」を考えてもらう予定です。				
ESD活動をさらに深めるために、今後どのような活動を展開していこうと考えていますか？				
自身のライフワークである「戦争記憶の風化を防ぐ」ためにも、大学生らしい革新的な切り口や語り方を工夫し、有効的に小中高校生に興味をもらってもらい、昨年から続く私の個人的なESDテーマである「ESD活動自体を持続する」方法の実践として、やがてその子たちが私の講演や発信をきっかけとして、自発的に戦争や政治などについて深く考えてくれたらなと思っています。そして同時に、私の実体験から、経済的に余裕のない子供たちへも適切な教育（もしくは塾に行かなくても勉強ができるようになる、興味を持ってくれる）支援や親御さんたちの苦悩の理解とサポートができるよう、組織の拡充を進めたいので、そういったノウハウをぜひ今回のコンファレンスで学ぼうと考えています。				

ふりがな 氏 名	よしつぐ えみ		都道府県	福岡県	
	吉次 恵美				
所属/肩書	北九州市立大学国際環境工学部 非常勤講師				
私のESD活動	小・中・高・大学におけるキャリア教育と就業支援				
ESD活動を 表すキーワード	キャリア教育	就業支援	ファシリテーション		
活動の概要（特に、取り組みの独創性、革新性、成果について説明してください）					
私はキャリアカウンセラーとして世代を問わず、多くの方々のキャリア支援を行っています。 これまでのESD活動として挙げられる具体例は下記の通りです。 ・主に福岡・佐賀で活動しているキャリア教育プログラム「job study.jp」にファシリテーターとして関わっています。 「job study.jp」は小中学校の総合学習の時間を用いて、社会人（企業・団体）と学校（生徒・教師・保護者）を結び、学校内で様々な職業を「体験」するプログラムです。 社会人にとっては、生徒に自身の仕事内容を体験してもらうプログラムを練り上げ、実施することで、仕事を振り返り、社会的役割を見つめ直す意義があります。 また、生徒にとっては職業で必要な資質と自身の性格との共通点や、日頃の生活との結びつきを知り、多様性を学ぶことを意図しています。 ・北九州市立大学の国際環境工学部 1 年生必修科目「職業と人生設計」（キャリアデザインと同義）を担当しています。この授業では、将来の進路に対する不安や迷いを解消し、有意義な大学生活を営むために何をすればいいのかを学びます。聞くだけ、覚えるだけの授業とは対極にあり、コミュニケーションスキルの向上（傾聴やアサーション、リーダーシップ等）を中心にグループワークで学びます。また、先輩や社会人を多数招き、自身が「感じたこと」「考えたこと」を大切にします。講師である私自身も授業がより良く行えるよう努力を重ね、今年3月に東京大学大学総合教育センターのインタラクティブ・ティーチング講座を修了しました。 ・その他に福岡労働局の就職支援講座や民間会社のキャリア採用の就職支援、高校生のキャリア教育や就職ガイダンス等にも取り組んでいます。 ・JobStudy.jp http://www.jobstudy.jp/					
ESD活動をさらに深めるために、今後どのような活動を展開していこうと考えていますか？					
小中学生と接する機会がありますが、その時に感じているのが、彼らの感想や振り返りの内容の浅さ、薄さです。 「（経験してみて）どうだった？」と聞いた際に「面白かった」「楽しかった」とのコメントはよくありますが、「どんなところが？」と聞いた時に具体的かつ的確な言葉が返ってくることはそう多くはありません。 様々な経験をすることはとても大切ですが、ただイベントとして過ぎ去ってしまうのはあまりにもったいないと考えています。文部科学省のホームページで「ESDで育みたい力」に挙げられている体系的な思考力（問題や現象の背景の理解、多面的かつ総合的なものの見方）をそれぞれが身につけるべく、自身で振り返りを十分に行い、他の参加者がどう感じたのか知っていく。そのトレーニングとなるような「リフレクション」のワークショップを今後展開できたらと考えています。					

ふりがな 氏 名	よしもと こうへい	都道府県	福岡県	
	吉本 光平			
所属/肩書	福岡県立武蔵台高等学校 教諭			
私のESD活動	「寺子屋プロジェクト」「届けよう、服のチカラ」プロジェクト」担当「ユネスコカンボジアツアー」参加			
ESD活動を表すキーワード	次世代につなぐ教育	地域交流	国際理解	

活動の概要（特に、取り組みの独創性、革新性、成果について説明してください）

私が所属している福岡県立武蔵台高等学校はユネスコスクールに平成21年度から加盟しており、学校行事と ESD 活動を絡め様々な取り組みを行っています。本校は多くの行事をユネスコスクール活動として位置づけています。「ユネスコスクール講演会」、「世界一大きな授業への参加」、「海外派遣研修」など特色ある行事がいくつもありますが、特に本校開校以来の伝統行事である「天拝山登山」は、年5回の登山を通じてクラスでの絆を深め、地域を利用するための公共心を養うだけでなく、ESD の基本的な考え方である「地域の文化財に関する学習」「生物多様性」「環境学習」を内包し、本校の代表的な ESD 活動となっています。

私は昨年度より教務課特色化係ユネスコ委員会の担当として活動しております。ユネスコ委員会とは生徒会の委員会の一つで各クラス2名ずつ選出された60名の生徒からなります。大きな取り組みとして「ユネスコ寺子屋プロジェクト」と「届けよう、服のチカラ」プロジェクトに参加し国際的なボランティア活動を行いました。「ユネスコ寺子屋プロジェクト」は、ICTを活用した世界寺子屋運動についての調べ学習とリーフレットの作成を行うことで、生徒の情報活用能力を高めることに繋がりました。「届けよう、服のチカラ」プロジェクトでは、世界の途上国の現状と衣服の寄贈活動についてユニクロ社員の方に説明していただきました。そして学校全体で子ども服の回収を行い、地域の方々にも協力を貰いながら多くの古着を途上国に送ることができました。

これらの取り組みは「国際理解教育」「環境教育」として日常の授業では味わえない知識・経験・達成感を生徒たちにもたらしめています。

ESD活動をさらに深めるために、今後どのような活動を展開していこうと考えていますか？

先述の通り、現在私はユネスコ委員会の担当として活動しております。現在委員会として行っている活動は国際的視野に立ったボランティア活動を主に行い、「国際理解教育」「環境教育」の取り組みを実施しています。しかし他の ESD の基本的な考え方である「エネルギー教育」「世界遺産や世界の文化財等に関する教育」「その他関連する教育」という部分に対してはあまり実践できていないことが現状です。今後の私の展望としては様々なESDに関する研修会などに積極的に参加し、自らの知見を広げ、ユネスコ委員会に持ち帰ることで、生徒たちと協力しながら、ESD の基本的な考え方を全て踏まえた上で、生徒に実りのある ESD 活動を展開していきたいと考えています。近い目標としては「ユネスコ寺子屋プロジェクト」「届けよう、服のチカラ」プロジェクト以外にも生徒たちと取り組むことができそうな国際的な支援活動を探していきたいと考えています。